

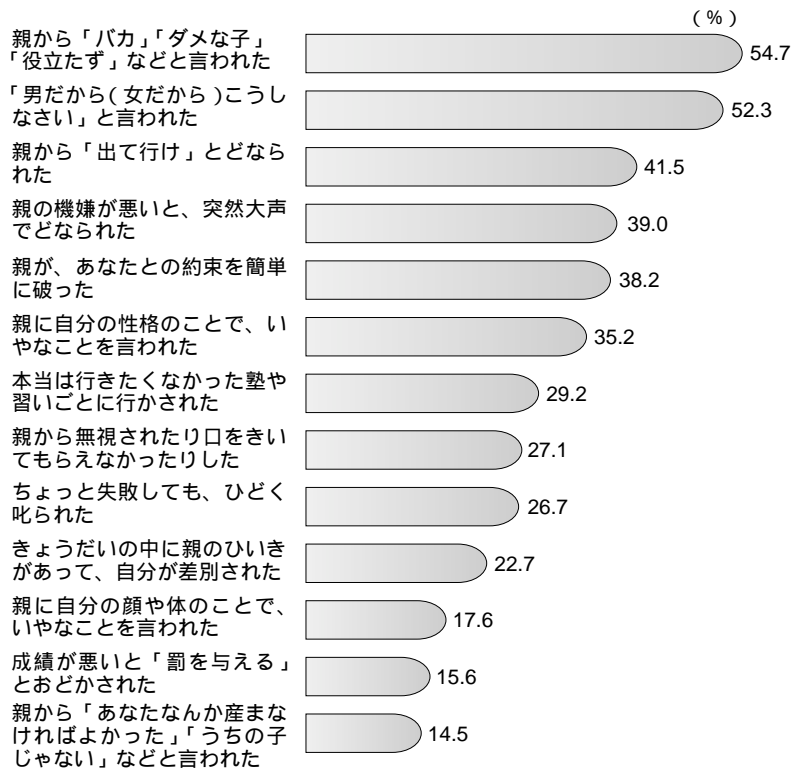
子どもたちが成長段階において親からどれほど適切でない扱い（このレポートではアブユースという言葉を使う）を受けたかを明らかにすること、またそれらが子どもの自己像や将来展望にどのように影響を与えているかをみてみようという主旨で、今回の調査を企画した。このレポートは、一人ひとりの親が自分の行為が子どもの成長にどんな影響を及ぼすのかを自覚をもって子育てをし、また、子どもの成長を支援するために、まわりの人々が親にどのような援助をしたらよいのかなどを考えるきっかけになればと思っている。

TOPIC 1

無視できない親たちの精神的暴力の現状

詳細はp.22～25へ

精神的暴力を受けた経験



「しょっちゅう」+「わりと」+「ときどき」+「たまに」あった割合

調査概要

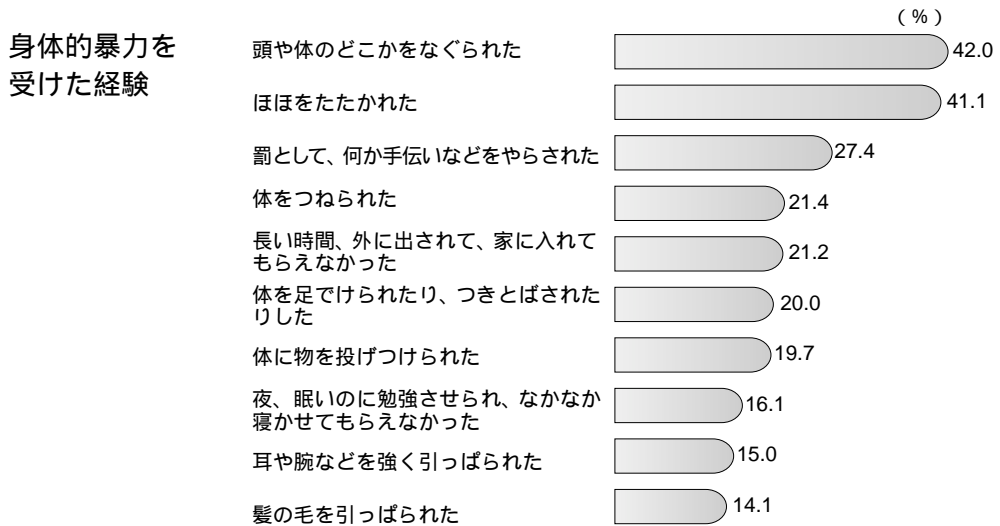
1. 調査テーマ：親による「適切でない扱い」(アブユース傾向)が子どもの内界や将来展望に及ぼす影響
2. 調査視点：「虐待」の語の使用はあえて避けたが、アブユースの4種類のうち、性的濫用を除いた「身体的暴力、ネグレクト、精神的暴力」に属する行為を、子どもはどの程度親から受けて育っているか、中学生に小学生やそれ以前を思い出させて、記入を求め、それと子どもの自己評価や将来展望などと、どう関連するかをみようとする。
3. 調査項目：3領域のそれぞれで、小学生がそれ以前に親によって行われた「適切でない扱い」(身体的暴力17項目、ネグレクト16項目、精神的暴力18項目、計51項目)、自己評価、将来展望、自分の過去と現在の家庭、親の姿、年をとった親の世話をしたいかなど。
4. 調査時期：2001年10月～11月
5. 調査対象とサンプル数：首都圏と近郊の中学校7校の1・3年生824名(男子350名、女子474名)

【アブユースの内容】それぞれのアブユースの項目を因子分析した結果、以下の因子が見いだされた。

<身体的暴力> 身体的暴行 物を使った暴行 罰の多用 <ネグレクト> 世話の怠慢 健康への配慮の欠如 監督の放棄 <精神的暴力> 言葉による脅しと無視 親の不和 親の権力の濫用 自尊心の侵害

TOPIC 2

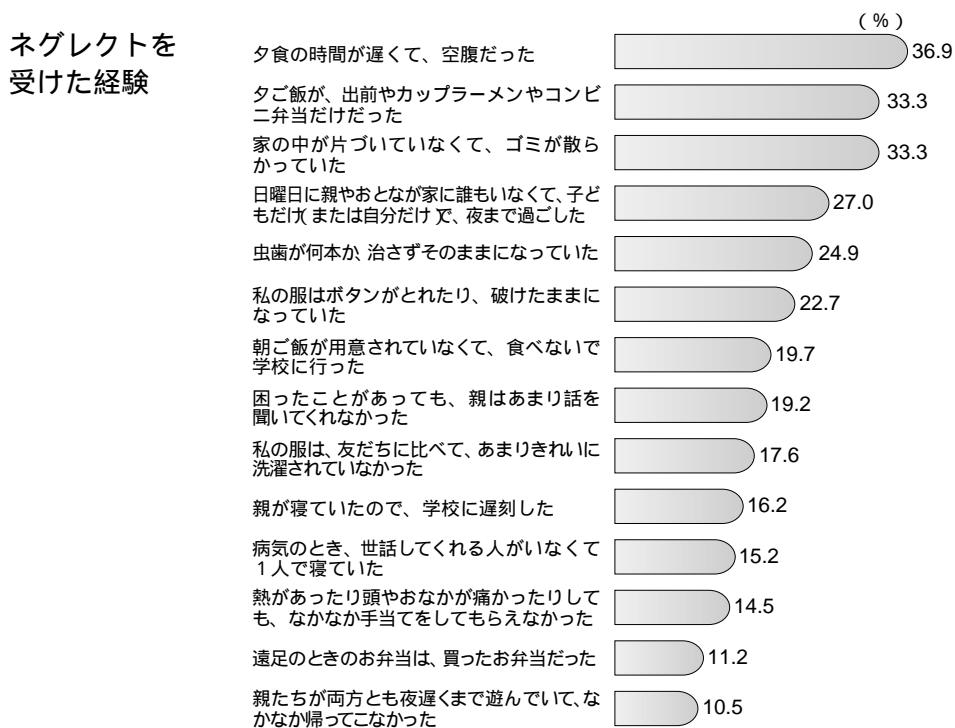
親からの身体的暴力を受けたと感じる割合は少ない 詳細はp.16～19へ



「しょっちゅう」+「わりと」+「ときどき」+「たまに」あった割合

TOPIC 3

「夕食が遅く空腹と感じていた」子どもは3分の1 詳細はp.19～21へ

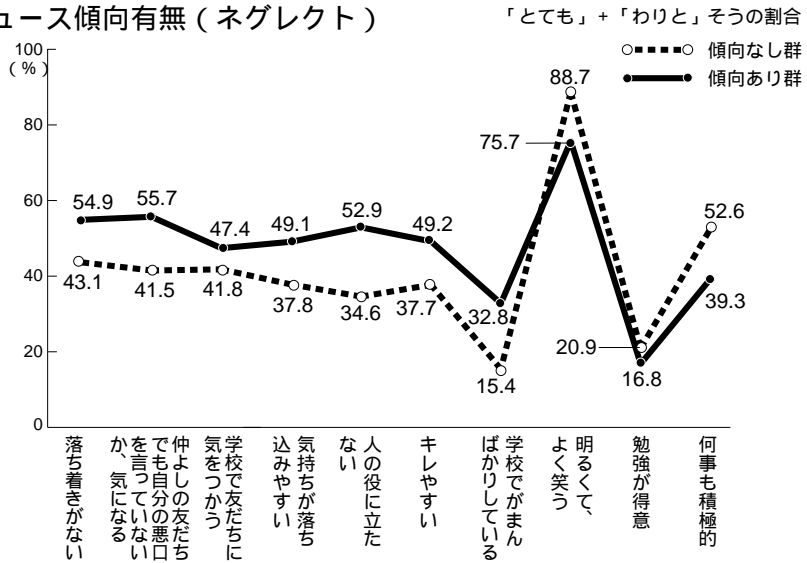


「しょっちゅう」+「わりと」+「ときどき」+「たまに」あった割合

TOPIC 4 アブユースを受けた子どもの自己像

詳細はp.31～32へ

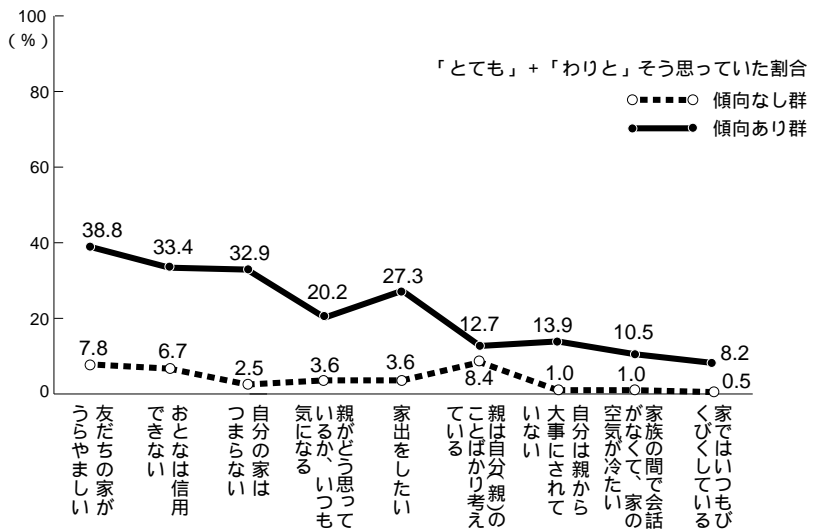
自己像 × アブユース傾向有無（ネグレクト）



TOPIC 5 アブユースを受けた子どもにとっての居場所

詳細はp.33～34へ

子ども時代の家族感情 × アブユース傾向有無（ネグレクト）



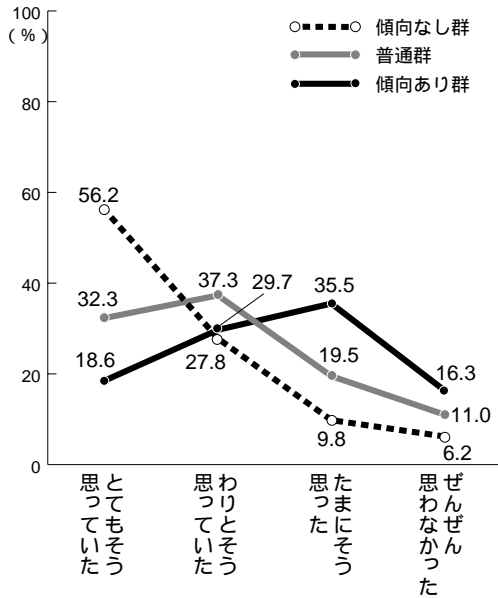
【各項目の加算点の算出の仕方】

子どもが受けたアブユースの度合いをみるために、まず「ネグレクト、精神的暴力、身体的暴力」の各項目の加算点を算出した。それぞれのアブユースの種類のうち「しょっちゅうそうだった（しょっちゅうだった）、わりとそうだった（わりとあった）」を4点、「ときどきあった」を3点、「たまにあった」を2点、「ぜんぜんなかった」を1点とした。ただし、「ぜんぜんなかった」に回答した割合が90%を超えた項目は、加算項目からはずした。それぞれの加算点を算出して4分割した後で、下位約25%を「アブユース傾向なし」群、上位約25%を「アブユース傾向あり」群、その中間を「普通」群とした。

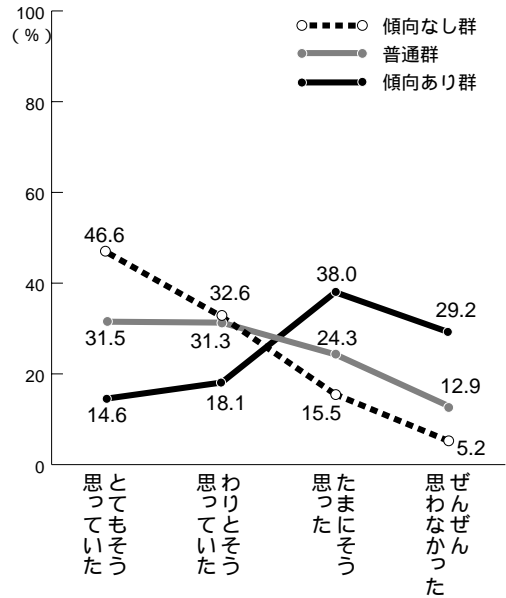
TOPIC 6 アブユースを受けた子どもは親への肯定的な感情が抱けない

詳細はp.35～37へ

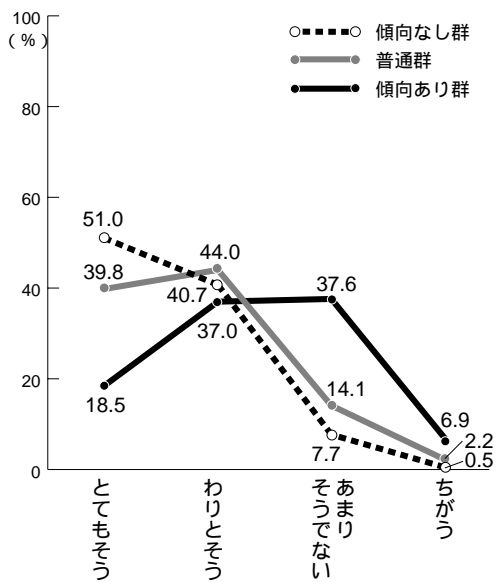
2人ともやさしい親だ ×
アブユース傾向有無（ネグレクト）



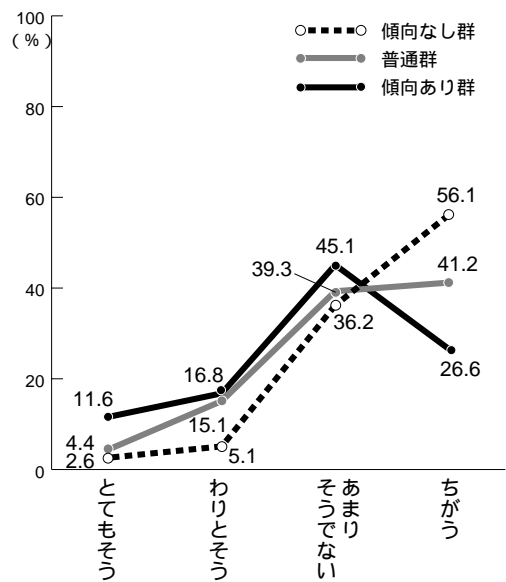
親と出かけるのが楽しい ×
アブユース傾向有無（ネグレクト）



自分の家族が好き ×
アブユース傾向有無（ネグレクト）

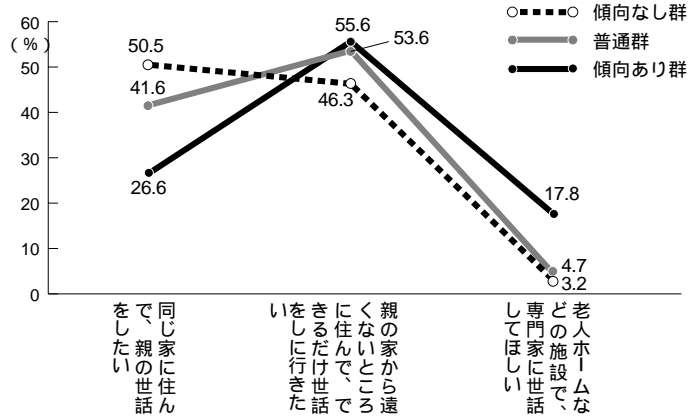


家でがまんばかりしている ×
アブユース傾向有無（ネグレクト）

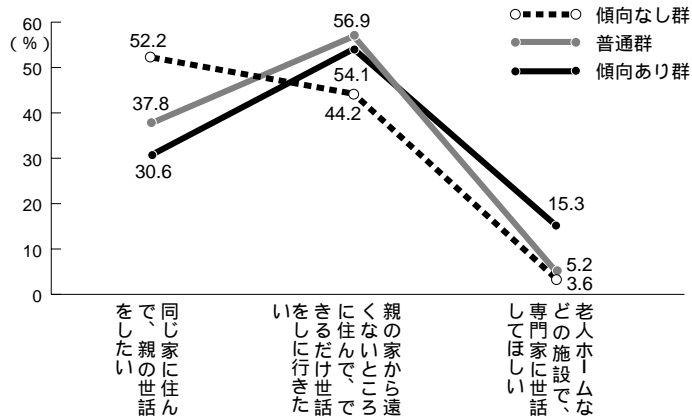


TOPIC 7 アブユースを受けた子どもは老後の親の面倒を見る気持ちが薄い 詳細はp.41へ

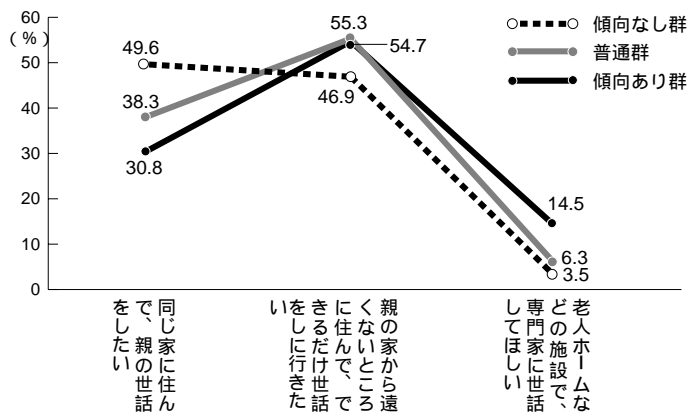
将来の親の世話 × アブユース傾向有無（ネグレクト）



将来の親の世話 × アブユース傾向有無（精神的暴力）



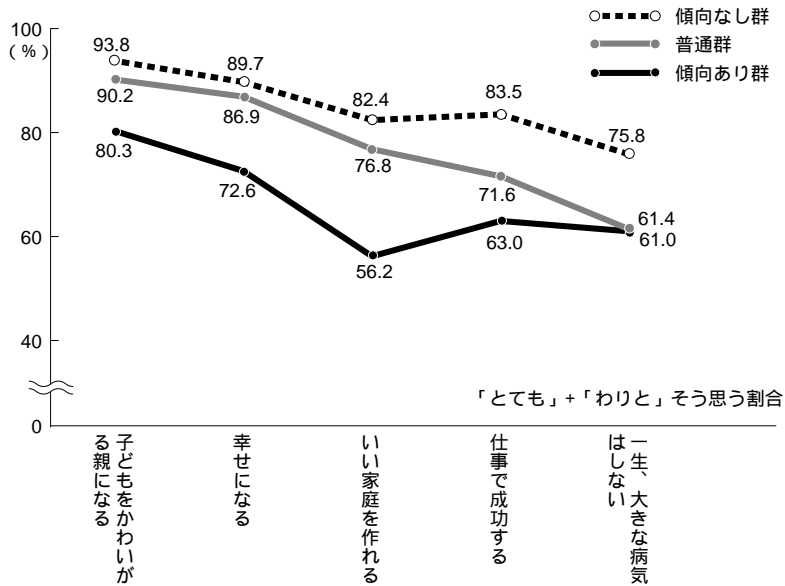
将来の親の世話 × アブユース傾向有無（身体的暴力）



TOPIC 8 アブイユースを受けた子どもの将来展望は暗い

詳細はp.42～43へ

自分の将来像 × アブイユース傾向有無（ネグレクト）



まとめ

本調査の結果が示すものは、親が子どもにするアブイユースの、予想以上に重大で深刻な影響である。

親による不適切な扱いが子どもの自己像や子どもの頃の不幸せ感、親への感情（愛着）、将来像のすべてに、これほどまでにわたって、大きな影響を与えるとは、率直に言って予想せず、われわれは衝撃を受けた。

アブイユースを受けた子どもたちは、家庭に自分の居場所がなく、自分が愛されているという実感をもてないでいる。と同時にアブイユース傾向のある子どもは「キレやすい」「学校で友だちに気をつかう」など、基本的な人間関係づくりの難しさや感情のバランスの取り方が不得意なために、成長してからの友人関係がうまくいかなくなる。そのため、家庭

だけでなく、学校での友人関係にも自己の居場所を見いだせなくなる。さらにアブイユースを受けた子どもたちは、親や友人とうまくいかない経験が重なってであろう、将来の家庭像やまた人生の目標、希望などに対してまでも、否定的な展望をもつようになる。

こうした結果はわれわれに、子どもを扱う際の日常的な配慮の必要性を改めて問いかける。一人ひとりの親が自分のしている行為や親子関係の意味を自覚して子育てにあたること、また、アブイユース傾向のある親を周囲でどう発見し、親にどう適切な援助を与えることが必要か、また否定的な自己像や将来展望をもつ子どもをどう成長支援したらいいかについても、改めて方策を探る必要性があると思われる。

序 章

レポートの前に

チャイルド・アブユースをテーマにしたレポートを作成するにあたって、語の使用や調査の経過等で、少し長い前書きとする序章を構成した。

1. 語の使用をめぐる

この調査レポートは、子どもたちが成長段階において親からどれほど適切でない扱いを受けたかを明らかにすること、またそれらが子どもの自己像や将来展望にどのように影響しているかをみようと作成された。いわゆる「虐待」とその影響を明らかにすることが企図された。しかし、ここであえて「虐待」の語の使用を避けたのは、この訳語があまりにも過激な響きをもつことによる。

いわゆるチャイルド・アブユースの語を「児童虐待」と訳すことの不自然さは、これまで研究者によって折々指摘されてきた。もともとが「濫用、不適切な扱い」(ab-use)の語源からすれば、この語はそれほど重大な意味を内包していない。原語の意味である「適切でない扱い」の場合に、全てアブユースの語を使用できる。だから麻薬のアブユースといえば「麻薬の濫用」である。しかし、麻薬の濫用は意味がわかるが、「子どもの濫用」はいかにも日本語として馴染まない。研究者の中には「虐待」の語を嫌って、あえて「子どもの濫用」と表現している者さえいる。

この調査を実施するにあたってわれわれは、鳩首を集めた結果、レポートのタイトルに原語をそのまま使用し、「チャイルド・アブユース - 親による適切でない扱いの影響 - 」とした。

サブタイトルも本来は「不適切な扱い」とした方がコンパクトでよかったのだろうが、調査に回答してくれた子に「親から不適切な扱い」を受けたとレッテルを貼ることになるので、それを避けたかった。「適切でない扱い」なら、子育ては「適切でなかった扱い」の連続のようなものであり、使用が許されるだろうと考えた。

2. 調査デザインの問題

この調査はアブユースの4種類(身体的暴力・ネグレクト・精神的暴力・性的濫用)のうち、最もアンケート調査が難しい性的濫用を除いた3種類を対象としたものである。寡聞にしてわれわれは、この種の調査が一般の子どもを対象に行われた例を知らない。このテーマについての調査は、1988年に全国児童相談所所長会が行った調査をはじめ、児童相談所で扱ったケースを収集したものである。

しかし、われわれは新聞報道にみるような、すなわち児童相談所が扱うようなケースは氷山の一角で、自分たちの子育てを振り返っても、親が子どもを適切に扱っていない現状は珍しくないと考え。そうした状況を探り当て、広く子育ての中で配慮を怠らないことが必要ではないかと考え、この調査を実施することにした。

ここで使用した項目は、ネグレクト16項目、精神的暴力18項目、身体的暴力17項目からなる、合わせて51項目である。項目の採取は、ケースの中から、文献の中から、またインターネットのサイトにアクセスする作業を通じて行われた。しかし、収集した項目を並べたところ、目を覆いたくなるような残酷な項目が並び、子どもに実施するのは耐えられなかった。

そこで、大学生を対象に4回のプリテストが行われた。まず出現頻度が極めて稀な項目を外した。また意味が似通っているものも外して、項目を最小に絞り込んだ。

しかし、それでも記入を終わったとき、親による適切でない扱いだけを子どもに想起させて終わることは、教育的に考えて避けるべきだと考えた。そこでプラスの内容をもつ項目を、それぞれの領域に2、3項目加えることとした。その位置も、はじめに置いて楽しくつけるようにすると、マイナス項目に移った際に、不自然さが目立つ。

そこで、思い切ってマイナス項目から並べることにし、最後に、楽しい思い出をもつプラスの内容で終わることにした。

しかし、それにしてもこれらを今、もしかしたら「虐待」を受けている小さい子どもに聞くことはむごいことである。そこで、事実を客観的に受けとめる力をやや備え始めているはずの中学生を対象に、過去の経験を想起させることにした。

また、子ども時代をきちんと想起できる年齢になったであろう大学生に、プリテストを重ねた段階で、集計こそしなかったが、記入された用紙をざっとみていくと、アビュース項目に が多かった学生の自己像が暗い傾向を見だし、回顧的な調査ではあっても、こうした内容構成が意味をもつのではないかとの感触も得て、苦心の末に調査票と方法を確定した。

3. 調査実施の難しさ

入念な手続きを経て確定したはずの項目だったが、実施段階に入ると、かつてないほどに、学校から調査協力を断られる事態が出てきた。メンバーがそれぞれ知己を頼って、主旨説明をしながら、また子ども調査にふだんから理解のある学校にアンケート用紙を持参して説明をするなど、多くの学校に協力をお願いした結果、7校、824サンプルを得た。中に東京だけでなく、首都圏周辺の学校(195サンプル)も1校入っているのはそのためである。

調査に協力できないとの返事が続いたときは、さすがに眠れぬ夜もあった。プリテストを引き受けてくれた大学生が、いとも簡単に回答してくれたことで、調査が可能だと見込んだが、おとなである大学生なら自分のヒストリーの回顧もそれほど抵抗はないだろう。しかし中学生の子ども時代は、つい昨日のことである。せめて高校生を対象にすればよかったと悔やんだりした。ある程度こういう事態は予測していたので、アンケート用紙は通常よりかなり多量に用意はしてあったが、もう1週間して、もう5日して、もう3日して協力校が確保できなかつたら、大学生調査に切り替えるつもりで、日を数えた。

どうやら824サンプルを得た時点で回収を締め切った。

そうした思いを重ねただけに、今回この調査に協力してくださった7つの学校と824人の子どもたちに、心からの感謝を捧げたい。どの生徒にも決して愉快ではなかった調査であろうし、先生方

も実施後に種々のフォローを加えてくださったかもしれない。

しかし、こうした協力によって極めて貴重なデータを入手することができた。この結果を決して無駄にせず、いいレポートを作成したいと考えた。このデータによって、われわれは子育ての中の「子どもの適切でない扱い」を自戒することができる。再度ご協力くださった方々に感謝したい。

4. アビュース項目の因子分析

結果の処理についても幾つかふれる。

なお、このレポートは貴重なデータを大切にしたいと、通常の『小学生ナウ』では用いない統計処理もし、少し煩わしいのは承知で丹念に結果を載せた。

以下の章でアビュース項目を扱う際に、念のため各項目を因子分析して、親によるアビュース行為の構造をみておくことにした。2章では、それぞれの項目について、主因子法により、固有値が1.00以上の因子を抽出し、バリマックス法で回転した結果、次の因子構造を得た。

1) 身体的暴力項目

表1は、上記の手続きにしたがって、身体的暴力の17項目についての因子分析を試みた結果である。主因子法により固有値が1.00以上の3因子を抽出し、バリマックス法で回転し、因子負荷量0.400以上の項目を示し、命名を行った。

表が示すように、第1因子は「体に物を投げつけられた」「体を足でけられたり、つきとばされたりした」の項目で代表されるように、親による激しい身体的暴行であり、「身体的暴行」の因子と命名した。

第2因子は「体をしばられた」「タバコや何かの火を体に押しつけられた」が代表するようにロープやひもで体をしばったり、タバコや何かの火を体に押しつけるなど「物を使った暴行」の因子と命名した。

第3因子は「長い時間、外に出されて、家に入れてもらえなかった」「罰として、何か手伝いなどをやらされた」で代表されるように、「罰の多用」の因子と命名した。

2) ネグレクト項目

ネグレクト16項目についての因子分析を試みた。同様にして表2の結果が得られた。

第1因子は「私の服は、友だちに比べて、あま

りきれいに洗濯されていなかった」「夕食の時間が遅くて、空腹だった」が代表するように、子どもの身の世話と家事の放棄を内容とするものであり、「世話の怠慢」の因子と命名した。

第2因子は「病気のとき、世話してくれる人がいなくて1人で寝ていた」「熱があったり頭やおなか痛かったりしても、なかなか手当てをしてもらえなかった」の項目が示すように、子どもが病気のときすら世話をしないという「健康への配慮の欠如」の因子と命名した。

第3因子は「親たちが両方とも夜遅くまで遊んでいて、なかなか帰ってこなかった」「親とパチンコ（または飲み屋など）に一緒に行って、（外や近くや中で）待たされた」という項目から「監督の放棄」の因子と命名した。

3) 精神的暴力項目

同様に、精神的暴力18項目についての因子分析を試みたのが表3である。

第1因子は「親から『出て行け』とどなられた」「親から『あなたなんか産まなければよかった』『うちの子じゃない』などと言われた」「親から無視されたり口をきいてもらえなかったりした」の項目が示すように、子どもの人格を否定するような親の言動であり、「言葉による脅しと無視」の因子と命名した。

第2因子は「親たちが、ひどい口げんかをした」「親たちが、たいたたり物を投げたりというすごいげんかをした」「家族の誰かが、家族の中で暴力を受けた」という項目から「親の不和」の因子と命名した。

第3因子は「ちょっと失敗しても、ひどく叱られた」「本当は行きたくなかった塾や習いごとに行かされた」が代表するように「親の権力の濫用」と解釈できる。

第4因子は「親に自分の顔や体のことで、いやなことを言われた」「きょうだいの中に親のひいきがあって、自分が差別された」が意味するように「自尊心の侵害」と命名した。

以上を整理すると表4のようになる。

5. ケースをみる

今回の調査では、もう1つの角度から資料を整理した。量的な処理に加えて、アブユースを受けている頻度の高いケースを上位から20人抜き出して、子どもがどの項目に をつけているかをみようとしたりした。できれば面接などによってさらに聞き

取りをしたいケースである。824人の中には、適切でない扱いを超えて、「虐待」の名に値する仕打ちをされている子どもがいるのではないかと考えたためである。

それぞれの結果は3種類のアブユースを取り扱う2章でみていくが、ここではケースの抽出方法について述べる。

1) ケースの抽出方法

アブユースを受けた傾向を強くもつケースの抽出は、ネグレクト、精神的暴力、身体的暴力のそれぞれの項目に対して、「しょっちゅうそうだった(しょっちゅうだった)」を2点、「わりとそうだった(わりとあった)」を1点として加算し、上位20名をアブユース傾向が強いケースとして選り出した。

2) 指標について

ケースを分析するための指標として、以下の加算点を用いることにした。なお、表中にあるネグレクト加算点、精神的暴力加算点、身体的暴力加算点の結果は、2章に記した。

「自己像」の加算点は、「明るくて、よく笑う」「勉強が得意」「何事も積極的」の肯定項目では「とてもそう」=4点、「わりとそう」=3点、「あまりそうでない」=2点、「ちがう」=1点とし、「落ち着きがない」「仲よしの友だちでも自分の悪口を言っていないか、気になる」「学校で友だちに気をつかう」「気持ちが悪く落ち込みやすい」「人の役に立たない」「キレやすい」「学校でがまんばかりしている」の否定的項目を「とてもそう」=1点、「わりとそう」=2点、「あまりそうでない」=3点、「ちがう」=4点として加算した。加算得点が高くなるほど自己像が明るいことを示すようにした。

「子ども時代の不幸せ感」の加算点としては、「友だちの家がうらやましい」「おとなは信用できない」「自分の家はつまらない」「親がどう思っているか、いつも気になる」「家出をしたい」「親は自分(親)のことばかり考えている」「自分は親から大事にされていない」「家族の間で会話がなくて、家の空気が冷たい」「家ではいつもびくびくしている」の項目で、「とてもそう思っていた」=4点、「わりとそう思っていた」=3点、「たまにそう思った」=2点、「ぜんぜん思わなかった」=1点とし、加算得点が高いほど不幸せ感が強くなることを示すようにした。

「将来像」の加算点として、「子どもをかわ

いがる親になる」「幸せになる」「いい家庭を作れる」「仕事で成功する」「一生、大きな病気はしない」の項目を使用した。「とてもそう思う」= 4点、「わりとそう思う」= 3点、「あまりそう思わ

ない」= 2点、「ぜんぜんそう思わない」= 1点とし、加算点が高くなるほど将来像が明るいことを示している。

表1 身体的暴力項目の因子分析

	因子負荷量	項目内容
第1因子 (20.6%)	.800	体に物を投げつけられた
	.756	体を足でけられたり、つきとばされたりした
	.738	頭や体のどこかをなぐられた
	.588	ほほをたたかれた
	.560	体をつねられた
因子寄与率 (以下同じ)	.559	髪の毛を引っばられた
	.554	耳や腕などを強く引っばられた
第2因子 (17.1%)	.876	体をしばられた
	.839	タバコや何かの火を体に押しつけられた
	.763	突然、水をぶっかけられた
第3因子 (11.6%)	.559	罰として、髪の毛をむりやり切られた
	.536	長い時間、外に出されて、家に入れてもらえなかった
	.467	罰として、何か手伝いなどをやらされた
	.461	耳や腕などを強く引っばられた
	.455	罰として、長い時間、正座させられた
	.439	罰として、ご飯を抜かれた

表2 ネグレクト項目の因子分析

	因子負荷量	項目内容
第1因子 (12.9%)	.557	私の服は、友だちに比べて、あまりきれいに洗濯されていなかった
	.543	夕食の時間が遅くて、空腹だった
	.513	家の中が片づいていなくて、ゴミが散らかっていた
	.504	私の服はボタンがとれたり、破けたままになっていた
	.475	夕ご飯が、出前やカップラーメンやコンビニ弁当だけだった
第2因子 (10.6%)	.676	病気のとき、世話してくれる人がいなくて1人で寝ていた
	.547	熱があつたり頭やおなか痛かったりしても、なかなか手当てをしてもらえなかった
第3因子 (8.8%)	.724	親たちが両方とも夜遅くまで遊んでいて、なかなか帰ってこなかった
	.511	親とパチンコ(または飲み屋など)に一緒に行って、(外や近くや中で)待たされた

表3 精神的暴力項目の因子分析

	因子負荷量	項目内容
第1因子 (14.5%)	.760	親から「出て行け」とどなられた
	.676	親から「あなたなんか産まなければよかった」「うちの子じゃない」などと言われた
	.636	親から無視されたり口をきいてもらえなかったりした
第2因子 (11.6%)	.555	親から「バカ」「ダメな子」「役立たず」などと言われた
	.769	親たちが、ひどい口げんかをした
	.705	親たちが、たたいたり物を投げたりというすごいげんかをした
第3因子 (11.1%)	.469	家族の誰かが、家族の中で暴力を受けた
	.560	ちょっと失敗しても、ひどく叱られた
	.498	本当は行きたくない塾や習いごとに行かされた
	.471	「男だから(女だから)こうしなさい」と言われた
	.466	親が、あなたとの約束を簡単に破った
第4因子 (8.2%)	.458	親の機嫌が悪いと、突然大声でどなられた
	.419	成績が悪いと「罰を与える」とおどかされた
	.641	親に自分の顔や体のことで、いやなことを言われた
	.586	親に自分の性格のことで、いやなことを言われた
	.426	きょうだいの中に親のひいきがあつて、自分が差別された

表4 因子の命名(まとめ)

	身体的暴力	ネグレクト	精神的暴力
第1因子	身体的暴行	世話の怠慢	言葉による脅しと無視
第2因子	物を使った暴行	健康への配慮の欠如	親の不和
第3因子	罰の多用	監督の放棄	親の権力の濫用
第4因子			自尊心の侵害

第1章

子どもの現在と過去、 将来の展望

この調査レポートを企画したのは、各種のアビュースの現状を明らかにし、それがどう子どもの内界や人格形成に影響を及ぼすかを探っていくことだったが、その前に、子ども自身の内的世界と子どもを取り巻く環境とをざっとみておくことにする。

まず、子どもが現在もっている自己像と子どもの胸の中にある幼い頃の親の姿、そしてまた過去の自分の家庭生活の回顧、さらに将来の展望を把握しておくことが必要と考える。

1. 子どもの自己像

表1-1は、子どもの捉えている「自分」、すなわち自己評価である。上部の4項目がプラス、その他の8項目はマイナスの側面で、マイナスの側面には、自己価値観の低下や対人不安傾向、学校不適応傾向、アビュースを受けた子どもが示すと予測される特徴等を含んでいる。

また現在も家族内でアビュースが持続している場合も考えて、「家がまんばかりしている」「自

分の家族が好き(でない)」の項目を加えた。

表が示すように、プラス項目の「明るくて、よく笑う」「自分の家族が好き」では肯定率がおおよそ8割である。しかし自分を「何事も積極的」「勉強が得意」とみる子は少ない。積極的な自分を否定する子は5割を超え、勉強ができる自分を否定する子は8割を超えている。

下部のマイナス項目では、「落ち着きがない」「仲よしの友だちでも自分の悪口を言っていないか、気になる」の肯定率が5割、「学校で友だちに気をつかう」「気持ちが落ち込みやすい」「人の役に立たない」「キレやすい」の肯定率も、それぞれ4割を超える。

プラス項目では、子どもらしい明るさと家族への肯定的感情にほっとさせられるものの、しかし質問を変えてみると、諸処に気がかりな姿も見えてくる。

これらの傾向の背景には何があるか。とりわけ親から「適切でない扱い」を受けた子の特徴とどうかかわるかは、3章でみていくことにしたい。

表1-1 子どもの自己像

	(%)			
	とてもそう	わりとそう	あまりそうでない	ちがう
明るくて、よく笑う	33.1	50.4	14.8	1.6
自分の家族が好き	37.9	41.0	18.3	2.8
何事も積極的	7.2	36.0	49.0	7.9
勉強が得意	2.9	15.2	46.6	35.2
落ち着きがない	16.1	33.7	36.0	14.2
仲よしの友だちでも自分の悪口を言っていないか、気になる	21.1	28.1	29.6	21.2
学校で友だちに気をつかう	9.0	37.8	41.3	11.9
気持ちが落ち込みやすい	13.4	29.3	37.9	19.4
人の役に立たない	6.8	35.5	49.9	7.7
キレやすい	11.5	30.6	41.9	15.9
学校でがまんばかりしている	7.0	16.3	45.9	30.8
家ががまんばかりしている	5.5	13.2	39.3	41.9

2. 子ども時代の不幸せ感

表1-2は、子ども時代にもっていた「家族やおとなに対する感情」を回顧させた項目で、アビュースの影響をより意識して収録した項目である。

表は、家においての不幸せ感や緊張、他の家への羨望、親からの疎外感などの項目を「とても+わ

りとそう思っていた」割合の多い順に並べてある。下部の2項目は、過去の想起の際にネガティブな項目だけが並ぶのを和らげるために加えた項目だったが、これを肯定できない子も、少しであるが見受けられる。

さらに、「家出をしたい」「親から大事にされていない」は、女子が有意に男子より強く感じている。またアビュース項目の中にクッションの役割

表1-2 子ども時代の気持ち

		(%)			
		とてもそう 思っていた	わりとそう 思っていた	たまにそう 思った	ぜんぜん 思わなかった
友だちの家がうらやましい	男子	10.5	10.8	35.2	43.6
	女子	8.5	14.0	39.1	38.3
	全体	9.3	12.7	37.5	40.5
おとなは信用できない	男子	6.7	8.2	29.2	55.8
	女子	9.6	8.5	31.9	50.0
	全体	8.4	8.4	30.8	52.5
自分の家はつまらない	男子	7.8	8.4	27.9	55.8
	女子	7.9	5.8	27.9	58.4
	全体	7.9	6.9	27.9	57.3
親がどう思っているか、いつも 気になる	男子	6.4	7.2	17.4	69.0
	女子	5.7	5.7	22.3	66.2
	全体	6.0	6.4	20.2	67.4
家出をしたい	男子	4.9	5.8	18.3	70.9
	女子	6.6	6.0	26.2	61.3
	全体	5.9	5.9	22.9	65.4
親は自分(親)のことばかり考えている	男子	2.6	6.4	22.2	68.8
	女子	4.3	6.2	20.4	69.1
	全体	3.6	6.3	21.1	69.0
自分は親から大事にされていない	男子	1.2	4.9	22.7	71.2
	女子	3.2	4.5	29.5	62.8
	全体	2.3	4.7	26.6	66.4
家族の間で会話がなくて、家の空気が 冷たい	男子	2.6	0.9	13.3	83.2
	女子	2.1	1.3	12.4	84.2
	全体	2.3	1.1	12.8	83.8
家ではいつもびくびくしている	男子	0.9	2.0	5.0	92.1
	女子	1.9	0.9	5.5	91.7
	全体	1.5	1.4	5.3	91.9
2人ともやさしい親だ(1人のときは その人が)	男子	28.0	34.7	23.6	13.7
	女子	39.5	32.2	19.7	8.6
	全体	34.6	33.3	21.4	10.8
親と出かけるのが楽しい	男子	19.2	23.0	34.7	23.0
	女子	39.1	32.7	19.2	9.0
	全体	30.7	28.6	25.8	14.9

*P<.05 **P<.01

で入れておいた項目を集めた表1-3では、全ての項目で、女子が親に「いい思い出」を示すが、

表1-3 親に対する感情

*全ての女子の肯定率が大きい

好きなおやつを買ってくれた	**
誕生日にプレゼントをくれた	**
病気のとき一生懸命世話をしてくれた	**
帰りが遅いと心配してくれた	**
クリスマスケーキを買ってくれた	**
ほしいものを買ってくれた	**
親のひざの上にだっこしてもらった	**
手をつないで外へ出かけた	**
お風呂で体を洗ってもらった	**
2人ともやさしい親だ	**
親と出かけるのが楽しい	**

** P<.01

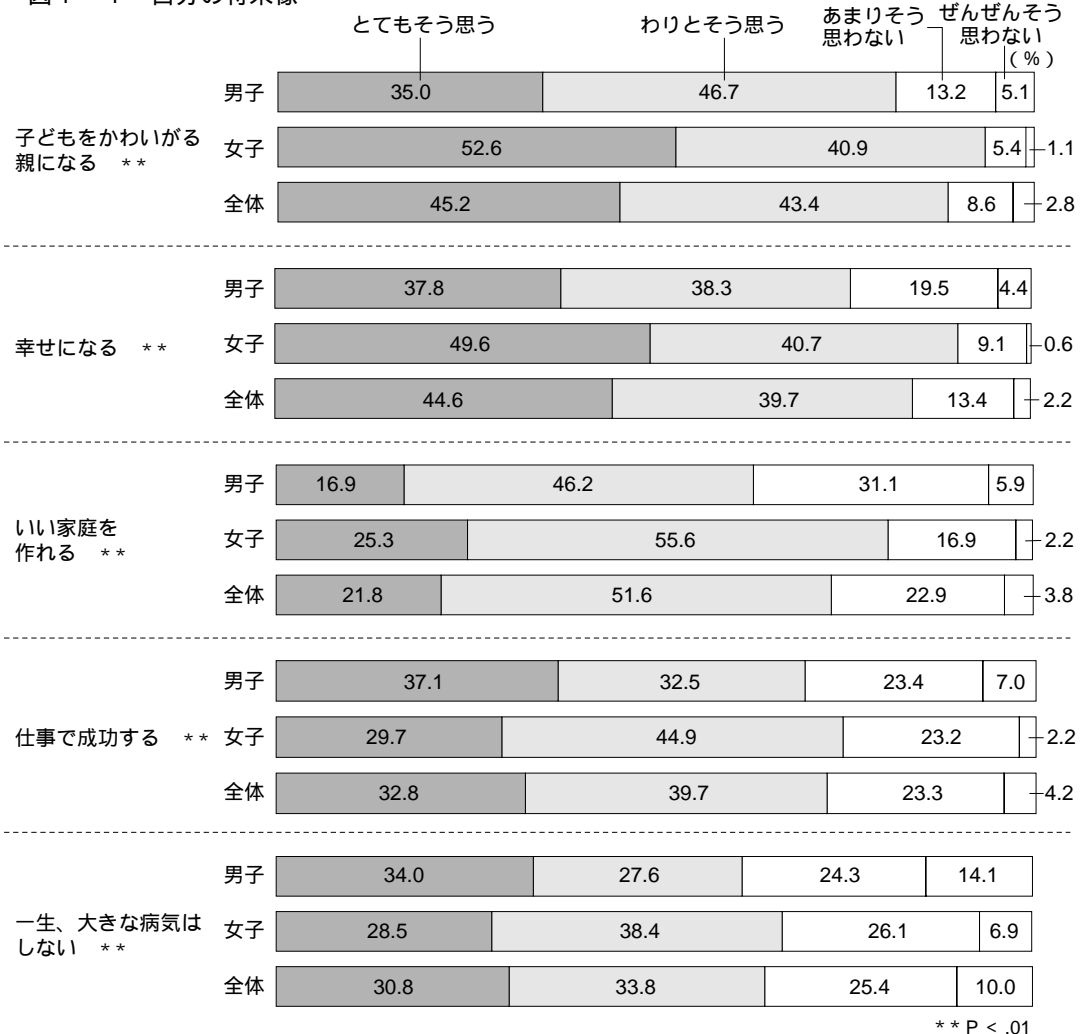
2つの表からは、女子が家族に期待するもの大きさと、それが満たされないことからくる不満がみえて、興味深い。

3. 将来展望

さらに、子どもの将来についての展望は、どんな姿をしているのだろうか。

未来を現在との連続線上で捉えるのか、それとも子どもの中で、過去の不幸な思い出をカバーしようとして未来は保障的に描かれるのだろうか。いずれにせよ、子どもの将来をたずねたのが、図1-1である。「子どもをかわいがる親になる」「いい家庭を作れる」は、受けたかもしれないアビュースを意識した項目であり、「幸せになる」「仕事で成功する」「一生、大きな病気はしない」では、

図1-1 自分の将来像



より漠然とした将来への期待感をみている。

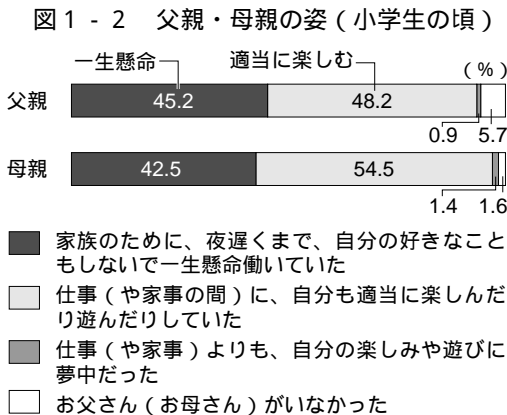
図が示すように、全ての項目で有意な性差がみられ、家族に関する感情は女子がポジティブであり、体力や仕事での成功は男子がポジティブに予測し、漠然とした「幸せになる」予測は女子がより強く予測している。

子どもが親から受けた「適切でない扱い」が、ここでみた将来展望にどのような影響をもたらすのかは、3章でみていきたい。

4. 子どもの回顧する親の姿

ひと昔前と比べると、親の姿が変わってきたかに思われる。発展途上の時代が終わると、ひたすら勤勉で家族のために献身的に働いていた親の姿は遠くなり、今は子育てや家族の世話をしながら、それなりに自分たちの人生をもエンジョイするかのような姿が広がってきている。町ではファミリーレストランやスポーツクラブ、おけいこごとのサークル、デパートに子どもを連れてショッピングを楽しむ若い母親たちの姿が日常化しつつある。その昔、小学校唱歌に歌われた「ともしび近く、衣縫う母」の姿はあまりにも昔語りだとしても、井上陽水の歌う「人生が二度あれば」に出てくる、働きに働いてきて、欠けた茶碗に自分の顔を映しながら茶を飲む老いた父親と、そのそばにいる母親の姿に近いものは、今も年輩の人々の中に、親の原型として保存されているのではないか。しかし子どもの胸の中には、どうだろうか。幼かった頃の親の姿を回顧させてみた。

図1-2によれば、「家族のため献身的に働いていた父親（働く父親）」と現代風の「適当に自分も楽しむ父親（楽しむ父親）」はほぼ半々。母親



については、むしろ「楽しむ母親」の方がやや多くなっている。子どもの目に映る親の姿は、大きな変化を遂げつつあるかに思われる。

5. 親の老後を世話したいか

親はいつかは老いる。子どもはそれをどれほど予期しているかは別としても、世間には世話が必要な高齢者がいることは知っているし、それがとても大変らしいことも感じているかもしれない。

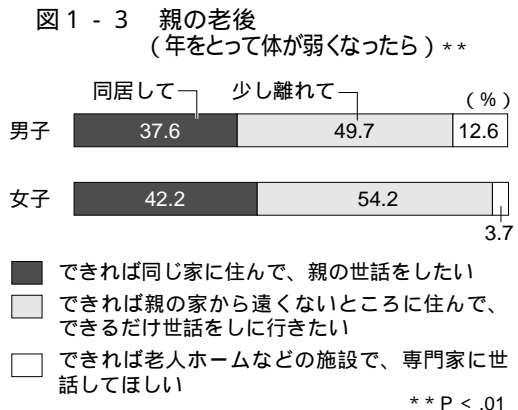
そうした厄介な親の世話を、子どもはどれほど自分の中で覚悟しているのだろうか。

「親が年をとって体が弱くなったら」という想定で、「同居して自分が世話したいか、それとも少し離れて住んで世話に通いたいか、それとも老人ホームなどの施設で、専門家に世話を任せたいか」を聞いてみた。

図1-3が示すように、「老人ホームなどの施設で」は非常に少ないが、同居して世話をしたい子はそれほど多くない。半数が「少し離れたところに住んで世話に通いたい」としている。男子と女子では、女子が有意に親の世話をしたいと思っている。最近、1人子どもをもつなら女の子を希望する親が多いと聞くが、そうかもしれない。これと「適切でない扱い」はどうか関連しているかを、後に3章で検討したい。

こうした数値は、おそらく現在の親についての子どもの感情を反映したものであろう。ここにも「適切でない扱い」の影響がみられるかもしれない。

次章では、子どもにどれほど「適切でない扱い」がされているかをアピユースの種類別にみていくことにする。



** P < .01

第2章

子どもに向けられた アブユースの現状

1. 身体的暴力の現状

親による子どものアブユースと聞けば、誰もがまず連想するのは身体的暴力であろう。

この危険な行為はしばしば子どもを死に追いやる。しかし身体的暴力は、子どもの日常のしつけや教育の中で、教育的罰と至近距離にある行為でもあり、軽度の身体的暴力はアブユースの見分けが難しいこともある。北欧のように親によるしつけであっても、それを不適切な扱い（アブユース）とみなして、簡単に逮捕される社会もあれば、日本のように、体罰を大幅に容認する文化をもつ社会もある。

ここで用意された暴力のアイテムは、文献やその他の資料の中から拾い出したものを、繰り返しのプリテストの中で取捨選択したものである。また子どもへの心理的影響を考えて、あまりに残酷な行為が質問紙上に並ぶのはどうかと思われ、類似の項目は整理した。ちなみにこれらの項目を因子分析してみると、序章でみたように、「身体的暴行、物を使った暴行、罰の多用」の因子から構成されている。

1) 暴力頻度の少なさ

親の立場にある者は、仮に教育やしつけの意図があったにせよ、子どもの身体に直接過度の暴力を加えたり、罰の名で苦痛を加えたり、恐怖を抱かせたりしてはならないのはむろんである。平成14年2月末に、最高裁が戸塚ヨットスクールの戸塚宏被告に上告棄却を言い渡し、関係者と共に実刑が確定した例は、われわれがあらゆる暴力に鈍感であってはならないことを示唆している。死亡者を出すか出さないかはしばしば紙一重のことでもある。子どもへの暴力が、その意図にかかわらず、子どもに対する養育態度として不適切な行為であることはいうまでもない。

図2-1に、親による身体的暴力の現状を示し

た。

全体で見ると、親から子ども時代、暴力を受けたと答えた子は非常に少ない。いずれの項目においても、暴力が「ぜんぜんなかった」の割合が多かったのには、救われる思いがする。

比較的暴力頻度の多い項目でも、「ぜんぜんなかった」と答えた子どもが約60%もあった。

それでも詳細にみると、暴力頻度が多い順では、「頭や体のどこかをなぐられた」「ほほをたたかれた」「罰として、何か手伝いなどをやらされた」で、約30～40%の子どもが経験している。

「体をつねられた」「長い時間、外に出されて、家に入れてもらえなかった」「体を足でけられたり、つきとばされたりした」「体に物を投げつけられた」は、合わせて20%前後の子どもが経験し、「夜、眠いののに勉強させられ、なかなか寝かせてもらえなかった」「耳や腕などを強く引っぱられた」「髪の毛を引っぱられた」も合わせて15%前後の子どもが経験している。これらは決して、少ないとみることが許されない数値であろう。

また頻度はわずかとはいえ、物を用いてする暴力「タバコや何かの火を体に押しつけられた」「体をしばられた」のような「虐待そのもの」の行為も、1%以下ではあるがみられる。「罰として、髪の毛をむりやり切られた」のような罰を受けた子どももいる。

こうした行為が、ごく一部の子どもの上に日常化している可能性も考えられる。タバコの火は高温で、おそらくやけどが起こったと考えられるが、子どもの心には、そのやけど以上の傷を作っているであろう。この点は後の章でさらに詳細にみていくことにする。なお、性別による有意差はなかった。

2) ケースをみる

表2-1は身体的暴力を受けている度合いの強い上位20ケースの一覧表である。

項目別にみると、「体に物を投げつけられた」は20人中15人、「体を足でけられたり、つきとばされたりした」14人となっている。

また「物を使った身体的暴力」は、「体をしばられた」が2人、「タバコや何かの火を体に押し

つけられた」が1人と、数は少ないが、この項目を2つとも受けている子どもが1人いる。これは、隠れた被虐待児に他ならない。

なお、「罰の多用」として「長い時間、外に出されて、家に入れてもらえなかった」は8人、「罰

図2 - 1 身体的暴力を受けた経験

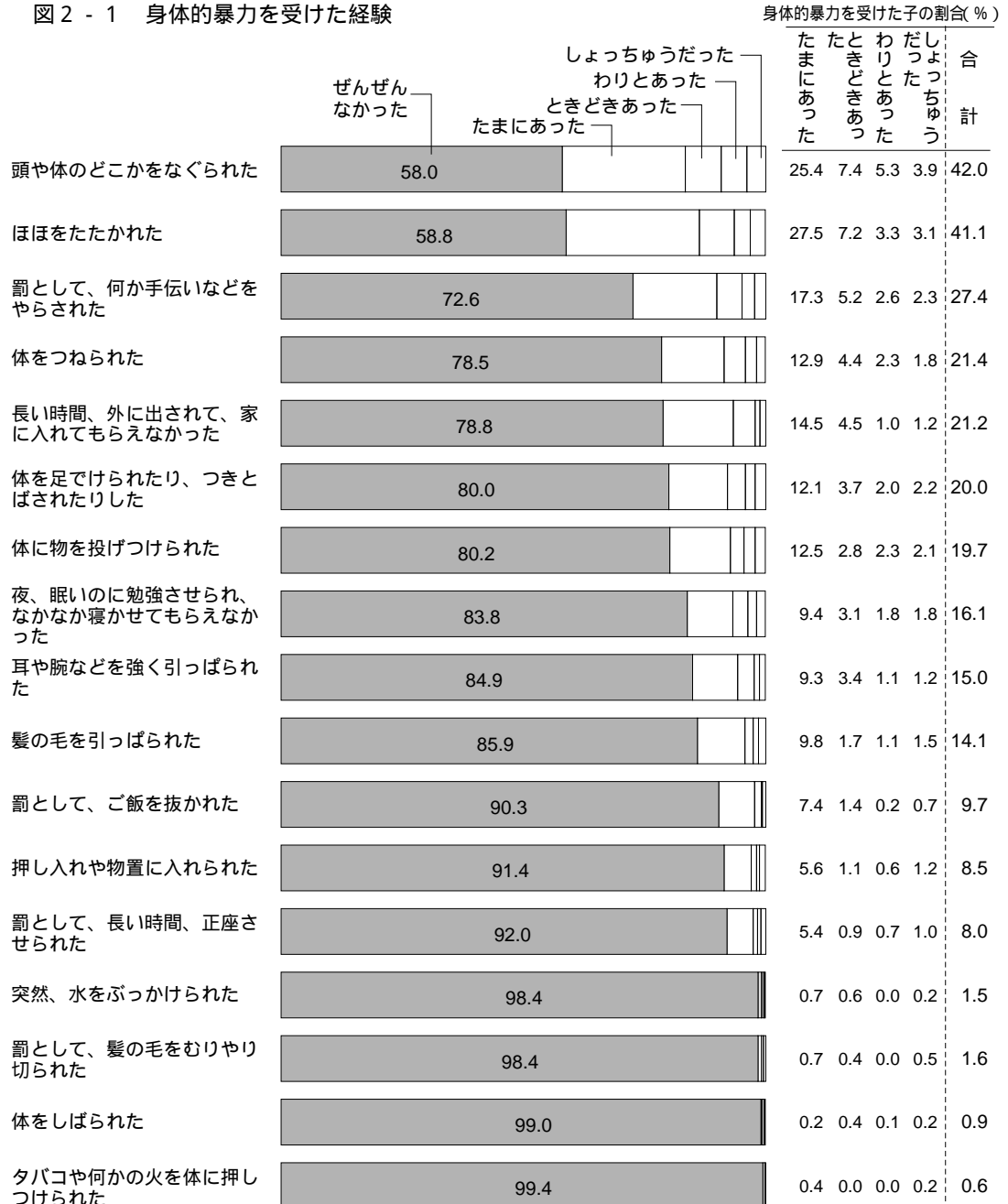


表2 - 1 身体的暴力傾向が強い子どものケース

ケース番号	性別	ほほをたたかれた	頭や体のどこかをなぐられた	体に物を投げつけられた	体を足でけられたり、つきとばされたりした	体をつねられた	髪の毛を引っぱられた	耳や腕などを強く引っぱられた	タバコや何かの火を体に押しつけられた	体をしばられた	押し入れや物置に入れられた	罰として、ご飯を抜かれた	長い時間、外に出されて、家に入れてもらえなかった	罰として、何か辛いなどをやらされた	罰として、長い時間、正座させられた	ながか寝かせてもらえなかった	夜、眠いのと剃髪させられた	切られた	突然、水をぶっかけられた	合計	合計	x2点 + x1点 = 合計	ネグレクト加算点	精神的暴力加算点	身体的暴力加算点	自己像加算点	不幸せ感加算点	将来像加算点
1	女子																			13	0	26	32	69	38	21	29	11
2	女子																			12	0	24	28	53	40	18	/	14
3	女子																			10	0	20	19	63	36	27	25	11
4	男子																			9	0	18	25	61	36	26	30	17
5	女子																			8	1	17	37	/	35	24	28	/
6	女子																			7	0	14	22	54	33	21	33	17
7	女子																			6	0	12	18	52	35	22	19	17
8	女子																			5	2	12	29	/	32	27	/	/
9	男子																			4	4	12	27	60	29	25	25	10
10	女子																			5	0	10	14	38	26	20	25	19
11	女子																			5	0	10	19	56	27	22	23	15
12	女子																			3	4	10	33	52	33	26	29	11
13	女子																			4	2	10	28	52	35	/	25	18
14	男子																			5	0	10	15	36	27	23	/	17
15	女子																			4	1	9	15	42	25	23	9	/
16	女子																			1	6	8	22	53	36	28	19	14
17	男子																			3	2	8	30	61	27	17	32	16
18	女子																			4	0	8	27	55	21	21	19	18
19	男子																			4	0	8	21	49	22	26	21	13
20	男子																			4	0	8	23	46	23	31	29	5
合計	x2+ x1	32	37	27	25	21	20	17	2	3	12	7	15	10	6	14	4	2	116	22	20人の平均	24.2	52.9	30.8	23.6	24.7	14.3	
																			17.1	27.4	13.6	25.8	15.3	13.5				

=しよちゆうだった(しよちゆうそうだった)に回答したものに
=わりとあった(わりとそうだった)に回答したものに
しをつけた。
ただしこの表では、=2点、=1点としてアビュース傾
向が強い子どもを抽出し、傾向が強いもの上位20名を特に
アビュース傾向が強いケースとして取り上げた。表2-2、
表2-3同様。

*注 /は欠損値を示す。
ネグレクト加算点、精神的暴力加算点、身体的暴力加算
点は3章で扱った数値と同様である。自己像加算点は、
自己像肯定項目には「とてもそう」=4点から「ちがう」
を1点とし加算し、否定項目では「とてもそう」=1点
から「ちがう」を4点として加算した。加算得点が高く
なるほど自己像が明るい。不幸せ感加算点は、「とても
そう思っていた」=4点から「ぜんぜん思わなかった」
を1点とし、加算得点が高いほど不幸せ感が強くなるこ
とを示している。将来像加算点は、「とてもそう思う」
=4点から「ぜんぜんそう思わない」を1点とし加算点
が高くなるほど将来像が明るいことを示している。

として、長い時間、正座させられた」が3人いる。

ケースでみると、ケース1では「罰として、何か手伝いなどをやらされた」「罰として、長い時間、正座させられた」「夜、眠いのに勉強させられ、なかなか寝かせてもらえなかった」「罰として、髪の毛をむりやり切られた」以外、すべての項目に が ついている。なお、このケースの自己像加算点は低く、不幸せ感が高く、将来像も暗いことがわかる。

2. ネグレクトの現状

1) 定義

ネグレクトとは、保護の怠慢と訳されることが

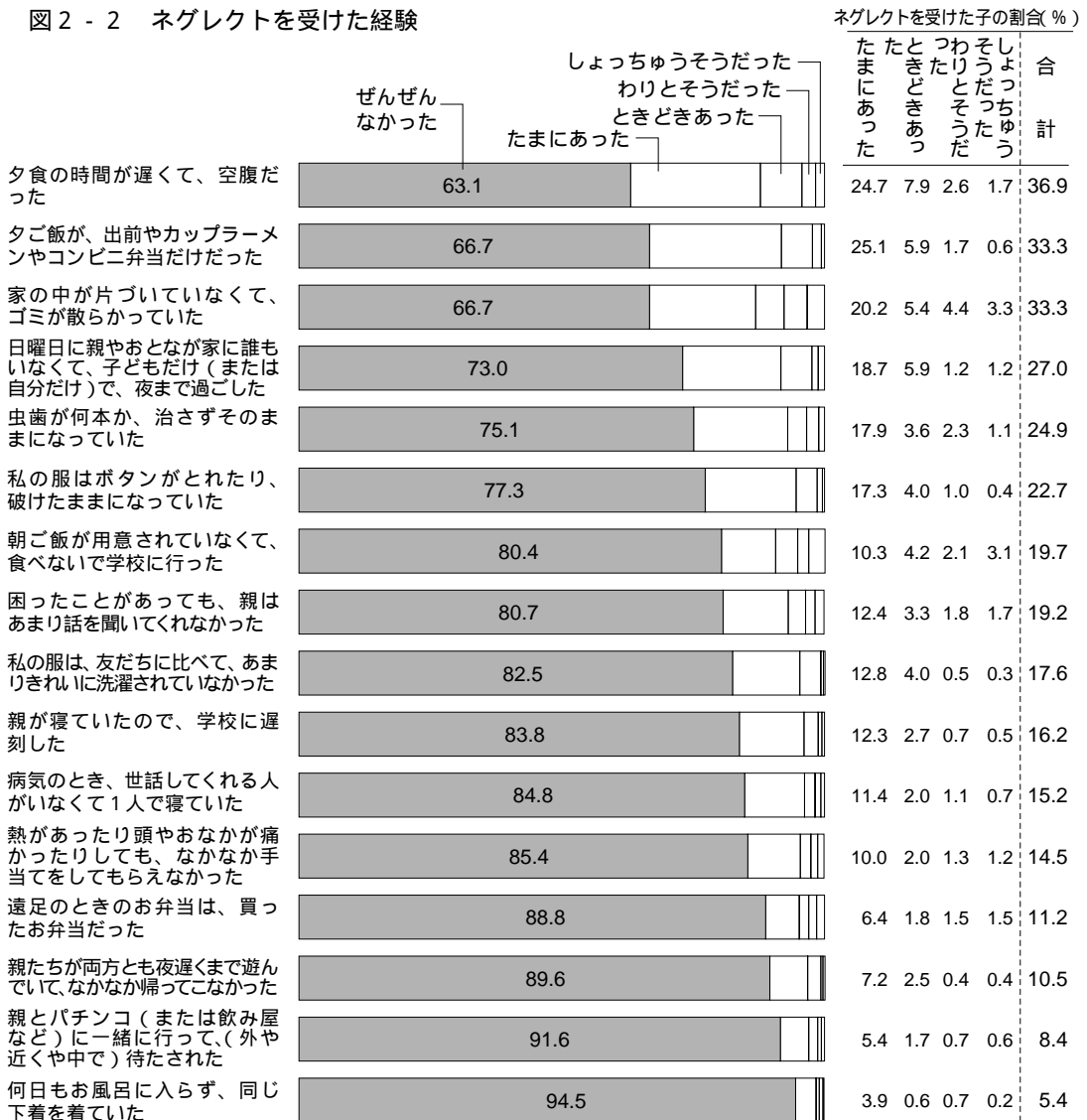
多い。親の養育義務を果たさず、子どもを放任する行為である。学齢になっても就学させない、衣食住に配慮しない、病気でも世話をしないなどが、その内容とされる。先にみたように因子分析の結果では、「世話の怠慢、健康への配慮の欠如、監督の放棄」の3因子が抽出された。

2) ネグレクトの現状

図2-2をみると、身体的暴力同様に「ぜんぜんなかった」が多数を占めることに、まずほっとする。日本の親は暴力を加えたりネグレクトしたりすることは、少ないと言えそうである。

内容をやや詳細にみていくと、「ぜんぜんなかった」が少ないのは、「世話の怠慢」の因子に属

図2-2 ネグレクトを受けた経験



する項目である。中でも「食事」に関する4項目がネグレクトされている。「朝ご飯が用意されていないくて、食べないで学校に行った」「夕食の時間が遅くて、空腹だった」「夕ご飯が、出前やカップラーメンやコンビニ弁当だけだった」「遠足のときのお弁当は、買ったお弁当だった」の項目は合わせると、平均25.3%が経験ありと答えている。それに比べると、健康の配慮をしなかったり、外へ出歩いて子どもの監督を放棄したりなどのヘビーなネグレクトは少ない。欧米の親に比べると、日本の親はまだかなり子どもの世話や保護をしていると言えそうである。

3) 性差をみる

身体的暴力や精神的暴力など、他の2つのアビュースに比べると、ネグレクトに関しては多くの項目で男子が有意に親からネグレクトされたと答えている。女子は自分でその分をカバーしたのか、それとも親をかばう気持ちがあるのか、それとも女子の感受性の問題なのだろうか。

性差がなかったのは「親とパチンコ(または飲み屋など)に一緒に行って、(外や近くや中で)待たされた」「親たちが両方とも夜遅くまで遊んでいて、なかなか帰ってこなかった」「困ったことがあっても、親はあまり話を聞いてくれなかった」「虫歯が何本か、治さずそのままになっていた」「熱があったり頭やおなかが痛かったりしても、なかなか手当てをしてもらえなかった」のような大きなネグレクト項目だけだった。

4) ケースをみる

表2-2は、強いネグレクトを受けている20ケースの項目ごとの回答を示した。

まずネグレクトの項目別にみると、「世話の怠慢」による項目では「家の中が片づいていなくて、ゴミが散らかっていた」20人中12人、「私の服は、友だちに比べて、あまりきれいに洗濯されていなかった」3人、「私の服はボタンがとれたり、破けたままになっていた」3人となっている。

「健康への配慮の欠如」としては、「病気のとき、世話してくれる人がいなくて1人で寝ていた」8人、「熱があったり頭やおなかが痛かったりしても、なかなか手当てをしてもらえなかった」6人、「虫歯が何本か、治さずそのままになっていた」5人であった。

「監督の放棄」として、「親たちが両方とも夜遅くまで遊んでいて、なかなか帰ってこなかった」3人、「親とパチンコ(または飲み屋など)に一

緒に行って、(外や近くや中で)待たされた」3人となっている。

また全体の平均値と20人の平均値で比較すると、ネグレクト加算点、精神的暴力加算点、身体的暴力加算点ともに上位20人の平均の方が高く、自己像加算点は20人の平均の方が低く、不幸せ感では20人の方が不幸せと感じており、逆に将来像はやや全体よりも明るい傾向を示している。これは、不幸な子ども時代を挽回する将来を夢見る心理だろうか。

3. 精神的暴力の現状

1) 精神的暴力とは

ここで、精神的暴力とは、平成12年11月に施行された児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)で「児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと」にあたるものであり、一般に「心理的虐待」と呼ばれている。

「子どもの心を不適切に取り扱うこと」、すなわち、子どもの人格を尊重し、敬意をもって接する取り扱い方とは正反対の言動である。おとなが何気なく言う「バカ」や「ダメな子」、「役立たず」は、子どもの心を傷つける精神的暴力である。

具体的には厚生労働省の「子ども虐待対応の手引き(平成12年11月改訂版)」にみられるように、以下の具体的な行動とされる。

- ・言葉による脅かし、脅迫など
- ・子どもを無視したり、拒否的な態度を示すことなど
- ・子どもの心を傷つけるようなことを繰り返す
- ・子どもの自尊心を傷つけるような言動など
- ・他のきょうだいとは著しく差別的な扱いをする

精神的暴力以外のアビュースでは、例えば身体的暴力は家族の外からも目につきやすく、医師や教師も身体の傷を発見しやすい立場にある。周囲から通報されることも多い。ネグレクトも衣服が整っていないかったり、盛り場で子どもがうろろろしていたり、空腹そうだったりすれば、外から目につくこともないではない。

しかし、精神的暴力は、言葉や態度による心理的暴力であるため、大声でどなったりする場合を除いては、家族以外の人から発見がされにくい。精神的暴力は、身体的暴力が子どもの心身に大きな外傷を与えるのと同様に、子どもの心に後々まで残る外傷を与える行為ではなかるうか。

表2-2-2 ネグレクト傾向が強い子どものケース

ケース番号	性別	私の服は、友だちに比べて、あまりきれいに洗濯されていなかった	何日もお風呂に入らず、同じ下着を着ていた	になつて服はボタンがとれたり、破けたままに学校に行つた	朝ご飯が用意されていなくて、食べないで寝てしまった	親が寝ていたので、学校に遅刻した	夕食の時間が遅くて、空腹だった	夕飯が、出前やカップラーメンやコンビニ弁当だけだった	遠足のときのお弁当は、買ったお弁当だった	家の中が片づいていなくて、ゴミが散らかっていた	なかなか帰つても夜遅くまで遊んでいて、親たちが向方とも夜遅くまで遊んでいて、親とパチンコ(または飲み屋など)に絡みついて、(外や近くや中で)待たされた	聞いてくれなかった	困ったことがあっても、親はあまり話を聞いてくれなかった	日曜日に親やおとなが家に誰もいなくて子どもだけまたは自分だけで夜まで過ごした	虫歯が何本か、治さずそのままになっていた	病気のとき、世話をしてくれる人がいなくて一人で寝ていた	熱があつたり頭やおなか痛かつたりして、なかなか手当てをしてもらえなかった	合計	合計	x2点 + x1点 = 合計	ネグレクト加算点	精神的暴力加算点	身体的暴力加算点	自己像加算点	不幸せ感加算点	将来像加算点	
21	女子																		8	1	17	37	/	35	24	28	/
22	女子																		4	5	13	40	63	24	31	18	15
23	男子																		4	3	11	41	36	15	19	9	5
24	男子																		3	4	10	35	55	27	22	27	19
25	女子																		3	2	8	33	52	33	26	29	11
26	女子																		3	2	8	32	69	38	21	29	11
27	女子																		2	3	7	30	31	10	26	16	19
28	女子																		2	3	7	25	42	26	27	10	20
29	男子																		3	1	7	28	36	12	29	13	18
30	女子																		2	3	7	36	33	20	23	27	16
31	女子																		3	0	6	27	28	15	22	19	19
32	女子																		2	2	6	27	55	21	21	19	18
33	男子																		2	2	6	/	50	13	23	28	10
34	女子																		1	4	6	37	44	20	30	30	17
35	男子																		2	1	5	32	45	23	22	19	12
36	男子																		1	3	5	33	28	11	21	13	17
37	女子																		2	1	5	/	47	30	26	24	20
38	女子																		2	1	5	29	37	21	22	14	12
39	女子																		2	1	5	28	53	40	18	/	14
40	女子																		1	3	5	36	50	23	25	28	/
	合計	x2+ x1	3	2	4	17	6	18	7	5	17	5	5	5	16	16	7	12	9	52	45	32.6	22.9	23.9	21.1	15.2	13.5
																						20人の平均	44.9	22.9	23.9	21.1	15.2
																						全体の平均	17.1	27.4	13.6	25.8	13.5

2) 精神的暴力の現状

図2-3は子どもたちが受けてきた精神的暴力の実態である。13項目をアブユースの頻度の高い順に並べたものである。

まず目につくのは、これらの項目は、すでにみてきた身体的暴力やネグレクトに比べ、頻度が高い点である。つまり、日本の両親は、身体的暴力を振るったり、子どもをネグレクトすることは少ないが、精神的に傷つける言動は、それらに比べてはるかに多いと言えそうだ。

頻度の高い項目を眺めてみると、上位の2番目、3番目くらいまでは親が子どもに軽い気持ちで言いそうな項目が並んでいる。以下、順にみてみよう。

親は子どもに対して、気軽に「バカ」「ダメな子」「役立たず」と言っている。

親は子どもに対して軽い気持ちで「バカだね」ということがある。それが親しみを込めて言われる場合は、子どもも傷つくことはないかもしれない。しかし「バカ」や「ダメな子」、「役立たず」は、本質的に子どもの存在価値を否定する言葉であるし、繰り返すこうした言葉を聞かされる子どもは、自尊心を形成できず、心にも深い傷を受けるのではない。

図にみるように、「親から『バカ』『ダメな子』『役立たず』などと言われた」ことが「ぜんぜんなかった」子どもは半数以下(45.3%)にすぎない。「バカ」「ダメな子」「役立たず」などと言われたことが「しょっちゅうだった」のは8.7%、「わりとあった」のは6.4%、「ときどきあった」のが13.5%、合計すると、28.6%にもなる。いかに親たちが子どもに対して気軽に暴言を吐いているかがわかる。

『男だから(女だから)こうしなさい』と言われた子どもは、半数を超える。男子と女子を比べると、親は女の子に「女だから」とプレッシャーをかけることが多い。男子では「男だからこうしなさい」と言われたとの回答(「しょっちゅう+わりと+ときどき+たまにあった」)は43.2%、女子では実に59.1%である。精神的暴力の中で、性差が最も大きい項目である。

男女の合計でみると、「男だから(女だから)と言われなかった」子どもは47.7%であり、半数以上の子どもが性によって異なる取り扱いを受けている。日本は欧米に比べると性別役割の期待が強い社会とされているが、男女共同参画社会をめざす動きが遅々として進まないのも、いまだに子どもたちが「男だから、女だから」と言われて育っていることにも原因があるのかもしれない。

「親から『出て行け』とどなられた」子どもも多い。

図でみると、「しょっちゅう+わりと+ときどき+たまにあった」を加えると、41.5%の子どもが「出て行け」とどなられた経験をもっている。子どもに「出て行け」とどなるとき、おおかたの親は本心から言っているわけではないのだが、これはれっきとした「言葉による脅かし、脅迫」であり、精神的暴力である。「出て行け」が繰り返されると、子どもは本気にはしなくなるかもしれないが、それでも親の脅しは子どもを深く傷つける。

また図によると、「親の機嫌が悪いと、突然大声でどなられた」経験をもつ子ども約40%いる。

子どもにとって親は絶対的な権力者である。子どもの身になって考えると、こちらは何も悪いことをしていないのに、親の機嫌の悪さだけでどなられては、たまったものではない。

「親の機嫌が悪いと、突然大声でどなられた」経験が「しょっちゅう+わりと+ときどきあった」子どもは19.4%にも上る。

親とした約束を簡単に破られてしまった子は38.2%。

おとな同士でした約束は、そう簡単に破ることはできない。この当たり前の常識が、わが子が相手だとあやしくなってくるらしい。「親が、あなたとの約束を簡単に破った」では、「ぜんぜんなかった」と答えたのは61.8%で、残りの子どもたちをみると、「しょっちゅうだった」3.7%、「わりとあった」3.9%、「ときどきあった」5.9%、「たまにあった」24.7%で、かなり多くの親が子どもを「約束を守るべき対等の相手」と考えていないことがわかる。

「親に自分の性格のことで、いやなことを言われた」経験がある子どもは35.2%。

常識のあるおとなは、おとなに相手の性格のことで自尊心を傷つけるような言葉は言わない。しかし、自分の子どもになると平気で子どもの自尊心を傷つける言葉を言っている。例えば「ぐず」「のろま」「おっちょこちょい」「けち」などの言葉を自分が言われたらどんな気持ちかを考えてみたら、軽々しく子どもにこのような言葉を言えないはずであろう。

「本当は行きたくなかった塾や習いごとに行かされた」と思っている子どもが29.2%。

たとえ教育的意図があっても、過度に子どもの気持ちを無視して、親の思いどおりにしようとするのが許されないことを、教育熱心な親たちは思わないのだろうか。子どもの将来の進路や社会

的成功にかかわることだから許されると、いやがる子どもを叱咤激励して塾や習いごとに行かせることが、ママありそうだ。

この項目の性差は有意で、男子が33.9%、女子が25.8%であり、男子の方に社会的成功への期待が強いのかかもしれない。ここでも日本が性別役割期待の強い国であることが実感される。

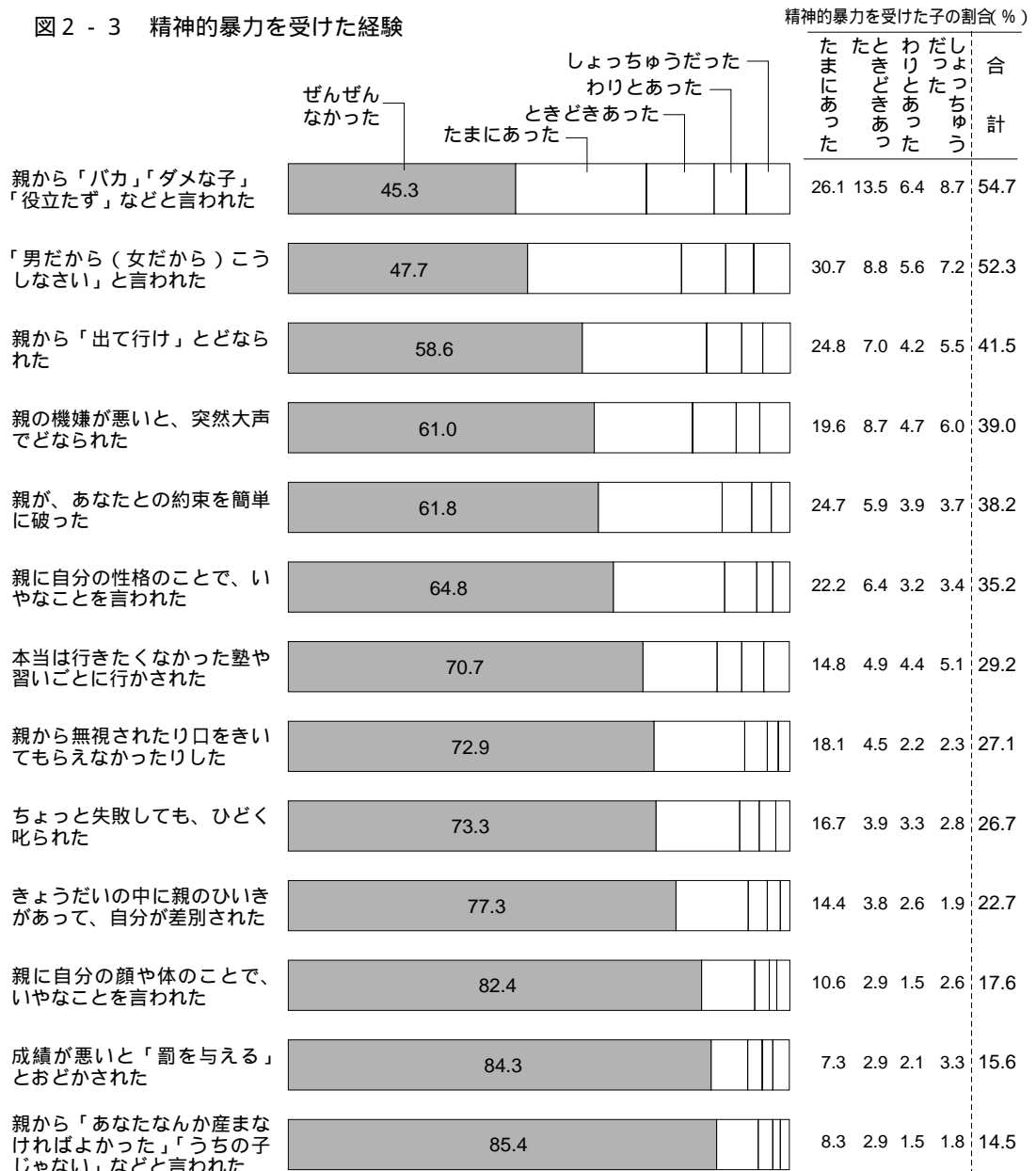
「親から無視されたり口をきいてもらえなかったりした」経験がある子どもは27.1%にも上る。子どもにとって親の無視や拒否は、「愛してい

ない」というサインであり、重度の精神的暴力ではないだろうか。「しょっちゅう+わりと+ときどきあった」を合計すると9.0%にもなる。

「ちょっと失敗しても、ひどく叱られた」経験がある子どもは、「たまにあった」子どもも加えると26.7%である。

親の虫の居所によって、ある時はあまり叱らないのに、ある時はひどく叱るものなのかもしれない。子どもを自分の所有物であるかのように考える親が多いことを示している。

図2 - 3 精神的暴力を受けた経験



おとなになっても「きょうだいの中に親のひいきがあって、自分が差別された」と感じている人は多い。本調査でも「たまにあった」までを含めると、調査対象の中学生では22.7%が差別されたと感じている。

「親に自分の顔や体のことで、いやなことを言われた」経験がある子どもは、「しょっちゅう+わりと+ときどき+たまにあった」を加えると17.6%である。

肯定率は女子が19.8%、男子が14.6%であり、差は少ないものの女子の方が多い。これは「親に自分の性格のことで、いやなことを言われた」と答えた子どもが女子の方に多かったのと同じく、女子の方が自分についての非難に敏感ということかもしれない。この項目や次の2つの項目は、精神的暴力の極にあるものと考えられる。しかし図をみると、この3項目には「ぜんぜんなかった」とする回答がいずれも80%を超えているのはほとんどである。

「成績が悪いと『罰を与える』とおどかさされた」経験がある子どもは「たまにあった」まで加えると、15.6%になる。

「親から『あなたなんか産まなければよかった』『うちの子じゃない』などと言われた」経験がある子どもは「たまにあった」まで加えると14.5%である。究極の否定であるこの言葉を言われた子どもが、「しょっちゅう+わりと+ときどきあった」を加えると、6.2%になる事実には、しっかり目を向けなければならない。「まぎれもない精神的暴力である」ことを親に自覚してほしい。

図は省略したが、子どもにとって親の不仲や暴力が、不快で悲しい体験となっている子どもも見逃せない。

驚くことは、「親たちが、ひどい口げんかをした」ことが「ぜんぜんなかった」とする子どもが約半数しかいないということだった。「しょっちゅう+わりと+ときどきあった」を加えると、17.1%にも上る。口げんかにとどまらず、たたいたり物を投げたりなどの激しい暴力はさすがに少ないが、それでも「ときどきあった」まで加えると5.9%もいる。

家庭内の暴力はたとえ子ども自身に向けられたものでなくとも、子どもの心を傷つける。「家族の誰かが、家族の中で暴力を受けた」経験があると答えた子どもは「たまにあった」も加えると20%にも上り、ドメスティック・バイオレンス(DV)がこのように高い頻度で見られることに

愕然とする。DVへの関心が高まりつつある現状だが、さらに詳細に子どもの視点からも、調査研究をする必要があるのではなかろうか。

「家族の中で、お酒やパチンコ、競馬(どれか1つでも)に誰かが夢中だった」ことがあったと答えた子どもの率も「たまにあった」までを加えると、32.8%という多さである。飲酒やパチンコ、競馬などは、単なるおとなの楽しみを超えて、家庭の経済的基盤を揺るがしかねず、子どもに心配や不安の多い家庭環境を与えることをおとなは肝に銘じるべきであろう。

3) ケースをみる

表2-3は精神的暴力傾向が強い20ケースである。

まず「親から『出て行け』とどなられた」20人中19人、「親から『あなたなんか産まなければよかった』『うちの子じゃない』などと言われた」14人、「親から無視されたり口をきいてもらえなかったりした」18人、「言葉による脅しと無視」は20人中ほとんどの子どものケースでみられた。

また「親たちが、ひどい口げんかをした」12人、「家族の誰かが、家族の中で暴力を受けた」11人、「親たちが、たたいたり物を投げたりというすごいけんかをした」5人など、「親の不和」の状態の中にいた子どもがみえてくる。

「親の権力の濫用」である「ちょっと失敗しても、ひどく叱られた」では13人、「本当は行きたくない塾や習いごとに行かされた」6人、「自尊心の侵害」である「親に自分の顔や体のことで、いやなことを言われた」11人、「きょうだいの中に親のひいきがあって、自分が差別された」8人となっている。

ケースをみてみると、ケース41では「『男だから(女だから)こうしなさい』と言われた」と「親が、もう一人の親や家族の悪口を言った」以外すべての項目に「がついている」。このケースでは、ネグレクト加算点、精神的暴力加算点、身体的暴力加算点すべてが高く、自己像も暗く、不幸せ感が強く、将来像が暗い。精神的暴力を多く受けている子どもはその影響が非常に大きいことがわかる。

4. まとめ

これらのケースをみていくと、数はそれほど多くないものの、身体的暴力、ネグレクト、精神的暴力とみなされるアブユースを集中的に受けてい

表2-3 精神的暴力傾向が強い子どもケース

ケース番号	性別	親から「出て行け」と言われた	「親からあなたなんか産まなければよかった」「うちの子じゃない」などと言われた	親から「バカ」「ダメな子」「役に立たず」などと言われた	親から「出て行け」と言われた	親に自分の顔や体のことで、いやなことを言われた	親に自分の性格のことで、いやなことを言われた	親の機嫌が悪いと突然大声でどなられた	自分が差別された	きょうだいの中に親のひいきがあつて、自分が差別された	「男だから(女だから)こつしなさい」と言われた	本当は行きたくなかった塾や習いごとに行かされた	ちよつと失敗しても、ひどく叱られた	成績が悪いと「罰を与える」とおどかさ	親が、あなたとの約束を簡単に破った	親が、もう一人の親や家族の悪口を言った	親たちが、ひどい口げんかをした	親たちが、たいたいたり物を投げたりといすこいげんかをした	家族の中で、お酒やパソコン、競馬どれか1つ(でも)に誰かが夢中だった	家族の誰かが、家族の中で暴力を受けた	合計	合計	×2点 + ×1点 = 合計	ネグレクト加算点	精神的暴力加算点	身体的暴力加算点	自己像加算点	不幸福感加算点	将来像加算点	
41	女子																				2	30	32	69	38	21	29	11		
42	女子																					1	27	19	63	36	27	25	11	
43	男子																					1	25	30	61	27	17	32	16	
44	女子																					4	24	40	63	24	31	18	15	
45	女子																					1	23	19	56	27	22	23	15	
46	男子																					3	23	25	61	36	26	30	17	
47	女子																					0	22	37	/	35	24	28	/	
48	女子																					0	22	28	53	40	18	/	14	
49	女子																					1	21	22	54	33	21	33	17	
50	男子																					0	20	21	49	22	26	21	13	
51	男子																					3	19	35	55	27	22	27	19	
52	女子																					6	18	17	58	19	27	29	17	
53	女子																					3	15	27	55	21	21	19	18	
54	女子																					2	16	25	49	15	20	18	14	
55	男子																					0	16	23	46	23	31	29	5	
56	男子																					4	16	27	60	29	25	25	10	
57	女子																					1	15	16	42	13	25	20	17	
58	女子																					3	15	36	50	23	25	28	/	
59	女子																					0	14	13	42	14	27	16	20	
60	男子																					0	14	22	40	19	17	/	16	
合計	×2+ ×1																					35	20人の平均 17.1	25.7	54.0	26.1	23.7	25.0	14.7	13.5
		180	18	14	16	20	23	11	19	13	31	29	20	29	31	29	20	20	9	18	20	17.1	27.4	13.6	25.8	15.3	13.5	14.7	13.5	

る子どもたちが確実におり、彼らの悲鳴が聞こえてくる気がする。

なお、ケースをみた表2 - 1、表2 - 2、表2 - 3で、アブユース相互の重複をみようとしたのが表2 - 4である。表が示すように、どの領域でもかつて上位20ケースに入っていた子どもは4人で、この4人には重度のアブユースが存在していたことになる。2つの領域でアブユースを受けていた子は11人、ある領域だけ上位20ケースに入っていた子が26人いたことがわかる。この傾向が中学生の現在も持続しているかどうかは別であるが、その可能性も十分に考えられる。親からアブユースを受けている子どもを発見し、児童相談所等に通報する必要性が指摘されるが、この表はま

さにそれを、ケースがもつ重みの中で示している。

事件にこそならないものの、こうした不幸な状態の中にいる子どもたちを、どうしたら早期に見つけ出すことができるのだろうか。その努力がさし迫って必要であると痛感する。

以上、子どもの受けた精神的暴力の実態をみてきたが、隠れた被虐待児の発見と共に、親が子どもに対して「自分の行為がアブユースである」とは認識せずに、アブユース、すなわち「適切でない子どもの扱い」をしていることを認識すべきではなからうか。子どもの健やかな発達のために、親ばかりでなく、教師を含めたおとな一般に、社会的注意を喚起し、警告を与える必要があると思われる。

表2 - 4 ケースの重複

ケース番号	身体的暴力の上位20人	ネグレクトの上位20人	精神的暴力の上位20人	共通数	
1*				3	
2*				3	
3		-		2	
4		-		2	
5*				3	
6		-		2	
7		-	-	1	} 身体的暴力のみ
8		-	-	1	
9		-		2	
10		-	-	1	} 身体的暴力のみ
11		-	-	1	
12			-	2	
13		-	-	1	} 身体的暴力のみ
14		-	-	1	
15		-	-	1	
16		-	-	1	
17		-		2	
18*				3	
19		-		2	
20		-		2	
22	-			2	
23	-		-	1	ネグレクトのみ
24	-			2	
27	-		-	1	} ネグレクトのみ
28	-		-	1	
29	-		-	1	
30	-		-	1	
31	-		-	1	
33	-		-	1	
34	-		-	1	
35	-		-	1	
36	-		-	1	
37	-		-	1	
38	-		-	1	
40	-			2	
45	-	-		1	} 精神的暴力のみ
52	-	-		1	
54	-	-		1	
57	-	-		1	
59	-	-		1	
60	-	-		1	

* どの種類でも上位20人に入るケース

第3章

アブユースが子どもに 与える影響

人生で子どもが初めてかかわるおとなは親である。親の存在を通して、子どもは人への信頼感を獲得し、人間関係の基礎を形成する。しかしもし不幸にして、親が子どもを適切に扱えない親であったら子どもはどうか。親の適切でないかわり（子どもに対するアブユース）は子どもの心に大きな影響を与え、その影響は、現在だけでなく将来にわたる大きなキズを子どもに残すと言われてきた。

本章では、親の子どもへの「身体的暴力」「ネグレクト」「精神的暴力」の有無が、子どもの自己像、子ども時代の不幸せ感、親への愛着、子どもの将来像にどのような影響を与えるかを検討する。この古典的でしかし重大なテーマに改めて接近してみたいと考える。

1. アブユースの度合い

はじめに、子どもが受けたアブユースの度合いをみるために、「ネグレクト」「精神的暴力」「身体的暴力」の各項目の加算点を算出した。

加算にあたっては、それぞれのアブユースの種類のうち、「しょっちゅうそうだった（しょっちゅうだった）」「わりとそうだった（わりとあった）」を4点、「ときどきあった」を3点、「たまにあった」を2点、「ぜんぜんなかった」を1点とした。ただし「ぜんぜんなかった」に回答した割合が90%を超えた項目は、加算項目からはずしてある。

それぞれの加算点を算出して4分割した後で、下位約25%を「アブユース傾向なし」群、上位約25%を「アブユース傾向あり」群、その中間を「普通」群とした（表3-1、表3-2、表3-3）。

また加算項目の詳細は、表3-4、表3-5、表3-6に掲げた。これらは項目ごとにアブユース傾向の有無によって「ネグレクト」「精神的暴力」「身体的暴力」のそれぞれの項目がどのような分布をしているか示している。

		（％）			
		13点以下	14～15点	16～19点	20点以上
割合		25.3	24.7	27.6	22.4
程度		アブユース 傾向なし群	普通群		アブユース 傾向あり群

表3-2 精神的暴力加算点

		（％）			
		21点以下	22～25点	26～31点	32点以上
割合		29.5	25.3	21.5	23.7
程度		アブユース 傾向なし群	普通群		アブユース 傾向あり群

表3-3 身体的暴力加算点

		（％）			
		10点以下	11～12点	13～15点	16点以上
割合		29.0	27.4	21.9	21.7
程度		アブユース 傾向なし群	普通群		アブユース 傾向あり群

表3 - 4 ネグレクト × アブユース傾向有無

(%)

		だ う し ょ う そ う ち	う わ り と そ	り と し ょ う わ ち	あ と き ど き	つ た ま に あ	な ぜ が ん ぜ たん
私の服は、友だちに比べて、あまりきれいに洗濯されていなかった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	1.7	11.3	86.9
	傾向あり群	1.1	1.7	2.8	13.8	29.3	54.0
私の服はボタンがとれたり、破けたままになっていた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.2	0.0	0.2	1.5	17.7	80.5
	傾向あり群	1.1	4.6	5.7	13.2	33.9	47.1
朝ご飯が用意されていなくて、食べないで学校に行った	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.7	0.5	1.2	1.7	10.3	86.7
	傾向あり群	11.5	8.0	19.5	13.8	21.8	44.8
親が寝ていたの、学校に遅刻した	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.2	0.2	0.5	12.8	86.5
	傾向あり群	1.7	2.9	4.6	10.9	23.6	60.9
夕食の時間が遅くて、空腹だった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.2	1.2	1.4	3.2	29.1	66.3
	傾向あり群	6.9	8.0	14.9	27.0	40.8	17.2
夕ご飯が、出前やカップラーメンやコンビニ弁当だけだった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	2.2	29.3	68.5
	傾向あり群	2.9	7.5	10.4	21.3	40.2	28.2
遠足のときのお弁当は、買ったお弁当だった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.5	0.7	1.2	1.2	4.9	92.6
	傾向あり群	4.0	4.6	8.6	5.7	16.1	69.5
家の中が片づいていなくて、ゴミが散らかっていた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	1.7	1.5	3.2	4.7	24.9	67.2
	傾向あり群	9.8	16.7	26.5	13.8	31.0	28.7
困ったことがあっても、親はあまり話を聞いてくれなかった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.5	0.7	1.2	1.2	12.3	85.2
	傾向あり群	6.3	6.9	13.2	11.5	27.0	48.3
日曜日に親やおとなが家に誰もいなくて、子どもだけ（または自分だけ）で、夜まで過ごした	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.2	0.2	0.4	2.0	20.4	77.1
	傾向あり群	5.2	4.0	9.2	19.0	33.3	38.5
虫歯が何本か、治さずそのままになっていた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.5	1.7	2.2	2.0	21.9	73.9
	傾向あり群	2.3	6.3	8.6	10.9	28.2	52.3
病気のとき、世話してくれる人がいなくて1人で寝ていた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.2	0.2	0.5	10.3	88.9
	傾向あり群	3.4	4.6	8.0	6.9	26.4	58.6
熱があつたり頭やおなかが痛かったりしても、なかなか手当てをしてもらえなかった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.2	0.2	0.4	0.7	7.4	91.4
	傾向あり群	4.6	5.7	10.3	6.3	25.9	57.5

表3 - 5 精神的暴力 × アブユース傾向有無

(%)

		た ゆし う だ つ ち	つ わ り と あ	り ゆし う + わ ち	あ と き ど き	つ た ま に あ	な ぜ が ん げ ん た ん
親から「バカ」「ダメな子」「役立たず」などと言われた	傾向なし群	0.0	0.4	0.4	3.0	15.2	81.3
	普通群	1.6	5.2	6.8	14.8	39.7	38.6
	傾向あり群	33.0	15.7	48.7	23.2	14.1	14.1
親から「出て行け」とどなられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	90.0
	普通群	1.1	1.9	3.0	5.5	34.0	57.5
	傾向あり群	21.1	14.1	35.2	17.8	24.3	22.7
親から「あなたなんか産まなければよかった」「うちの子じゃない」などと言われた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	97.0
	普通群	0.3	0.5	0.8	2.2	21.9	75.1
	傾向あり群	9.2	7.0	16.2	15.1	27.0	41.6
親から無視されたり口をきいてもらえなかったりした	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	97.0
	普通群	0.3	0.5	0.8	2.2	21.9	75.1
	傾向あり群	9.2	7.0	16.2	15.1	27.0	41.6
親に自分の顔や体のことで、いやなことを言われた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	99.6
	普通群	0.0	0.0	0.0	1.9	12.3	85.8
	傾向あり群	10.8	5.9	16.7	8.1	20.5	54.6
親に自分の性格のことで、いやなことを言われた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.4	5.2	94.3
	普通群	0.3	1.9	2.2	3.6	27.4	66.8
	傾向あり群	14.1	9.7	23.8	19.5	32.4	24.3
親の機嫌が悪いと、突然大声でどなられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	93.0
	普通群	0.8	1.4	2.2	8.5	24.9	64.4
	傾向あり群	24.3	16.2	40.5	19.5	26.5	13.5
きょうだいの中に親のひいきがあって、自分が差別された	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	97.4
	普通群	0.5	0.5	1.0	1.6	18.6	78.6
	傾向あり群	7.0	9.7	16.7	12.4	20.5	50.3
「男だから（女だから）こうしなさい」と言われた	傾向なし群	0.0	0.4	0.4	0.4	23.9	75.2
	普通群	1.9	4.9	6.8	11.8	38.9	42.5
	傾向あり群	25.4	14.1	39.5	14.1	22.2	24.3
本当は行きたくなかった塾や習いごとに行かされた	傾向なし群	0.9	0.0	0.9	0.9	8.3	90.0
	普通群	2.7	2.7	5.4	5.2	18.4	71.0
	傾向あり群	13.5	13.5	27.0	9.2	16.8	47.0
ちょっと失敗しても、ひどく叱られた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	97.0
	普通群	0.0	0.5	0.5	1.4	18.1	80.0
	傾向あり群	11.4	13.0	24.4	14.1	32.4	29.2
成績が悪いと「罰を与える」とおどかされた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	97.8
	普通群	0.0	0.8	0.8	2.7	7.9	88.5
	傾向あり群	14.1	7.0	21.1	6.5	14.1	58.4
親が、あなたとの約束を簡単に破った	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.4	8.7	90.9
	普通群	0.8	1.6	2.4	4.7	28.5	64.4
	傾向あり群	14.6	12.4	27.0	14.6	35.7	22.7
親が、もう一人の親や家族の悪口を言った	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.9	5.2	93.9
	普通群	0.8	3.0	3.8	6.3	21.4	68.5
	傾向あり群	14.6	12.4	27.0	12.4	26.5	34.1
親たちが、ひどい口げんかをした	傾向なし群	0.0	0.4	0.4	0.0	16.1	83.5
	普通群	0.8	3.6	4.4	7.4	44.4	43.8
	傾向あり群	17.8	11.9	29.7	18.4	28.6	23.2
親たちが、たたいたり物を投げたりというすごいけんかをした	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	96.5
	普通群	0.3	1.1	1.4	1.1	8.5	89.0
	傾向あり群	7.6	3.8	11.4	7.6	20.0	61.1
家族の中で、お酒やパチンコ、競馬（どれか1つでも）に誰かが夢中だった	傾向なし群	0.4	0.0	0.4	2.6	7.4	89.6
	普通群	7.9	6.0	13.9	6.6	14.5	64.9
	傾向あり群	22.2	13.5	35.7	8.1	11.9	44.3
家族の誰かが、家族の中で暴力を受けた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.4	0.9	98.7
	普通群	1.1	0.5	1.6	3.3	10.7	84.4
	傾向あり群	11.4	9.7	21.1	10.3	21.1	47.6

表3 - 6 身体的暴力 × アブユース傾向有無

(%)

		た ゆし う だ つ ち	つ わ り と あ	り ゆし う + わ ち	あ と き だ き	つ た ま に あ	な ぜ が ん づ ぜ た ん
ほほをたたかれた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.3	0.5	0.8	5.3	41.5	52.5
	傾向あり群	13.7	13.7	27.4	21.7	32.0	18.9
頭や体のどこかをなぐられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	1.5	1.5	5.8	38.7	54.0
	傾向あり群	18.3	20.6	38.9	20.6	29.7	10.9
体に物を投げつけられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.8	12.8	86.4
	傾向あり群	9.7	10.9	20.6	11.4	28.0	40.0
体を足でけられたり、つきとばされたりした	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.3	0.3	0.3	11.3	88.2
	傾向あり群	10.3	8.6	18.9	16.6	28.6	36.0
体をつねられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.3	0.3	2.0	14.8	82.9
	傾向あり群	8.6	9.7	18.3	14.9	25.7	41.1
髪の毛を引っぱられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.5	5.8	93.7
	傾向あり群	6.9	4.6	11.5	6.3	31.4	50.9
耳や腕などを強く引っぱられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.3	8.0	91.7
	傾向あり群	5.7	5.1	10.8	14.9	25.1	49.1
タバコや何かの火を体に押しつけられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	傾向あり群	1.1	0.0	1.1	0.0	1.1	97.7
体をしばられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	傾向あり群	1.2	0.6	1.8	1.2	1.2	96.0
押し入れや物置に入れられた	傾向なし群	0.0	0.4	0.4	0.4	1.3	97.9
	普通群	0.0	0.3	0.3	0.5	5.3	94.0
	傾向あり群	5.7	1.7	7.4	3.4	12.0	77.1
罰として、ご飯を抜かれた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	98.3
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.8	6.0	93.2
	傾向あり群	3.4	0.6	4.0	4.0	17.2	74.7
長い時間、外に出されて、家に入れてもらえなかった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	1.5	19.8	78.6
	傾向あり群	5.7	4.6	10.3	16.6	21.1	52.0
罰として、何か手伝いなどをやらされた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.3	1.0	1.3	5.5	25.4	67.8
	傾向あり群	10.3	9.1	19.4	11.4	21.1	48.0
罰として、長い時間、正座させられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	99.1
	普通群	0.3	0.8	1.1	0.5	4.0	94.5
	傾向あり群	4.0	1.7	5.7	2.3	13.1	78.9
夜、眠いのに勉強させられ、なかなか寝かせてもらえなかった	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.5	1.0	1.5	1.5	12.3	84.7
	傾向あり群	7.4	6.3	13.7	10.9	15.4	60.0
罰として、髪の毛をむりやり切られた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.3	0.0	0.3	0.0	0.3	99.5
	傾向あり群	1.7	0.0	1.7	1.1	2.9	94.3
突然、水をぶっかけられた	傾向なし群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	普通群	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	99.7
	傾向あり群	1.1	0.0	1.1	2.9	2.3	93.7

2. アブユース傾向と子どもの自己像

<ネグレクト>

アブユースの程度は、自己像にどのような影響を与えるのだろうか。「とてもそう」「わりとそう」の数値を抜き出して作成した図3-1をみると、自分は「仲よしの友だちでも自分の悪口を言っていないか、気になる」に「とても+わりとそう」と回答した子は、「アブユース傾向なし」群では41.5%、「普通」群では50.8%、「アブユース傾向あり」群では55.7%で、アブユースを受けたグループは、友だちの自分への感情に有意に懐疑的な傾向が見いだされる。

「気持ちが悪く落ち込みやすい」「人の役に立たない」「キレやすい」「学校でがまんばかりしている」も同様である。

他方、自己像の明るい側面ではどうか。自分を「明るくて、よく笑う」で「とても+わりとそう」と考える子は、「アブユース傾向なし」群で約9割、「普通」群で8割、「アブユース傾向あり」群で7割強。ネグレクトされたグループほど自己像が暗いことがわかる。

同様の傾向は「何事も積極的」にもみられる。親の子どもへのネグレクトは、子ども自身の自己像を否定的にすることがわかる。

以上で有意な傾向が見いだされなかったのは()で示したが、「学校で友だちに気をつかう」「勉強が得意」だけだった。

<精神的暴力>

では自己像と精神的暴力の関係はどうか。

図3-2をみると、「落ち着きがない」に「とても+わりとそう」と答えた子の割合は、「アブユース傾向なし」群は41.9%、「普通」群は49.2%、「アブユース傾向あり」群は58.8%で、アブユースを受けた傾向は「落ち着きのなさ」を有意に生み出すことがわかる。

以下「仲よしの友だちでも自分の悪口を言っていないか、気になる」から「学校でがまんばかりしている」まで、全ての項目で有意な関連が見いだされる。なお図の右の部分、自己像の明るい側面は、全体にポジティブな傾向を示すためか、差はみられない。

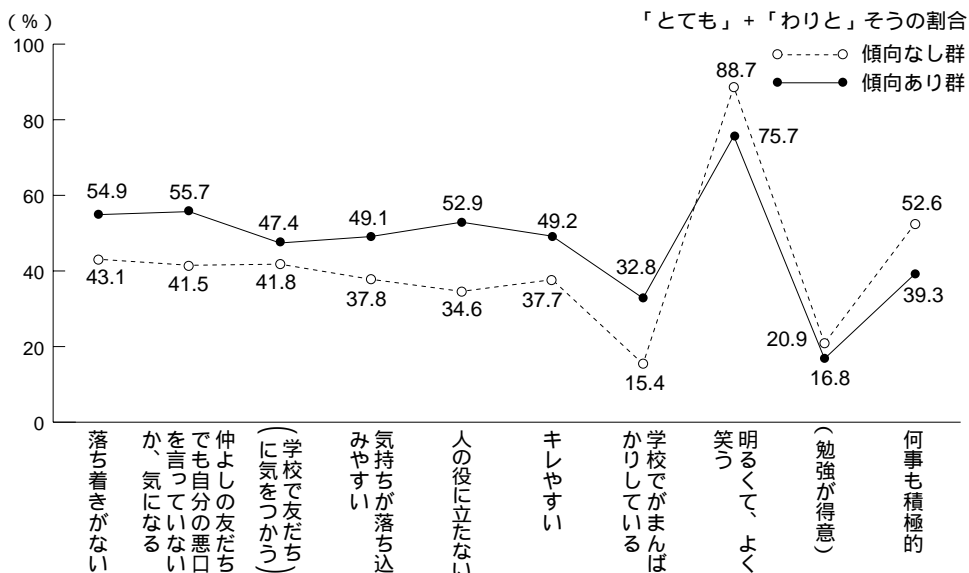
精神的暴力を受けた子どもの自己像もネグレクトと同様に否定的になるが、とりわけ「落ち着きがない」や「学校で友だちに気をつかう」など心の不安定さが目立つ。親から十分に愛されていないと感じることが、子どもの精神をより不安定にさせる可能性を示す結果であろう。

<身体的暴力>

では、身体的暴力の影響はどうか。図3-3をみると、精神的暴力とほぼ同様の傾向がみられる。「明るくて、よく笑う」「勉強が得意」「何事も積極的」と、「人の役に立たない」以外はすべての項目で、身体的暴力を受けたことについて「アブユース傾向なし」群と、「アブユース傾向あり」群間で有意な差がみられる。

「身体的暴力」も「ネグレクト」も「精神的暴力」

図3-1 自己像 × アブユース傾向有無（ネグレクト）



と同様に、自己像に否定的な影響を与えている。

以上をまとめると、親によって行われる子どもへのアブユースは、子どもの自己像に大きな影響を与え、否定的な自己像を作り上げる要因となることがわかる。またアブユースの経験がある子ども

もは、人のかかわりに自信がもてず、自分らしさを出しづらく、自分の気持ちをおさえ、がまんした生活を送っている状況を生み出すことがわかる。何と恐ろしい結果であろうか。

図3-2 自己像 × アブユース傾向有無（精神的暴力）

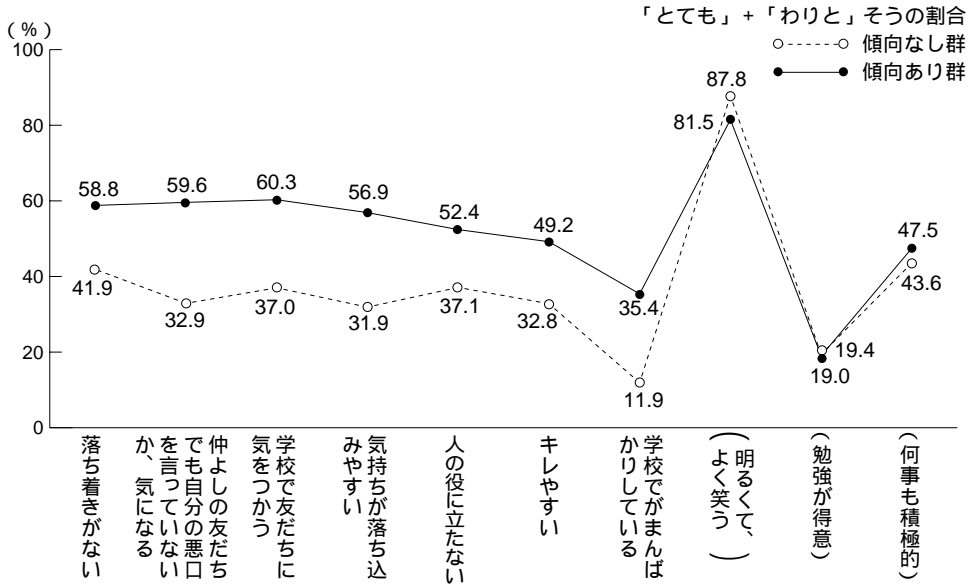
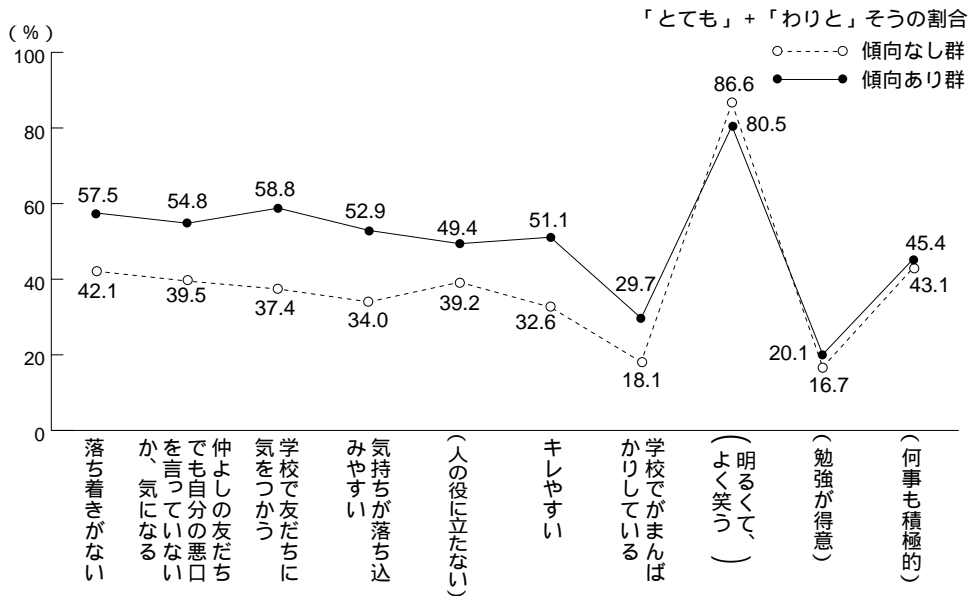


図3-3 自己像 × アブユース傾向有無（身体的暴力）



3. アブユース傾向と子ども時代の家族感情

アブユースを受けた子が「子ども時代に自分の家族に抱いていた感情」はどのようなものか。

<ネグレクト>

図3-4が示すように「友だちの家がうらやましい」に「とても+わりとそう思っていた」と答えた子は、「アブユース傾向なし」群は7.8%、「普通」群は20.8%、「アブユース傾向あり」群では38.8%。同様の傾向は「おとなは信用できない」「自分の家はつまらない」「親がどう思っているか、いつも気になる」「家出をしたい」「親は自分(親)のことばかり考えている」「自分は親から大事にされていない」「家族の間に会話がなくて、家の空気が冷たい」「家ではいつもびくびく

している」と、全ての項目で「アブユース傾向あり」群の方が「アブユース傾向なし」群より有意に高い。

つまりネグレクト経験のある子はそうでない子より、家庭での安らぎの経験が少なく、自分の居場所が家庭にないとの感情をもっていたことがわかる。それが「おとなが信用できず、家出をしたい」という気持ちにつながったのであろう。

<精神的暴力・身体的暴力>

同様に図3-5、図3-6によれば、精神的暴力、身体的暴力の「アブユース傾向あり」群も同様に、暴力と子ども時代の不幸な感情の結びつきが見いだされる。

心にせよ身体にせよ暴力を受ける状況が続くと、子ども時代は否定的な感情で覆われ、親やおとなやひいては人生そのものへの肯定的感情を抱けなくなることがわかる。これも自己像への影響同様に、深刻な結果であった。

図3-4 子ども時代の家族感情 × アブユース傾向有無(ネグレクト)

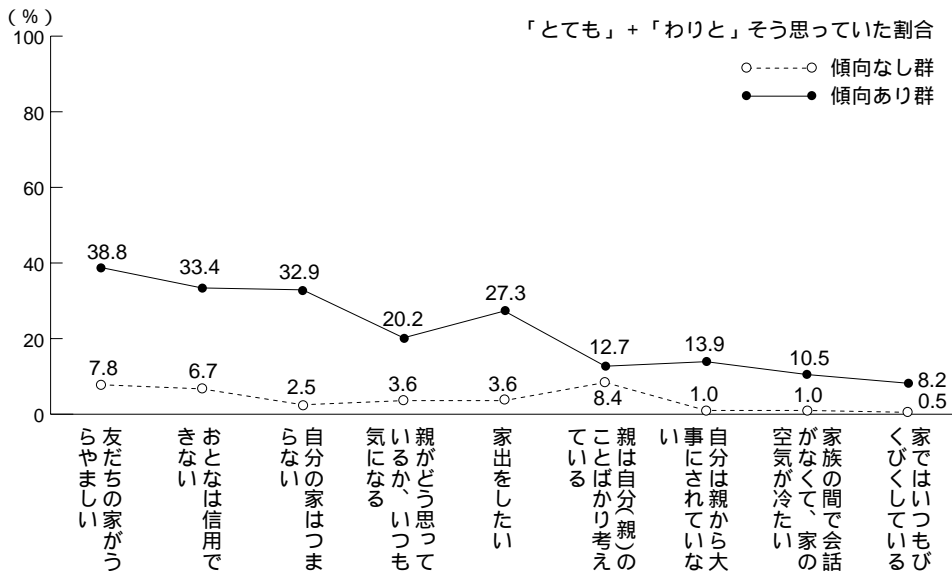


図3 - 5 子ども時代の家族感情 × アブユース傾向有無（精神的暴力）

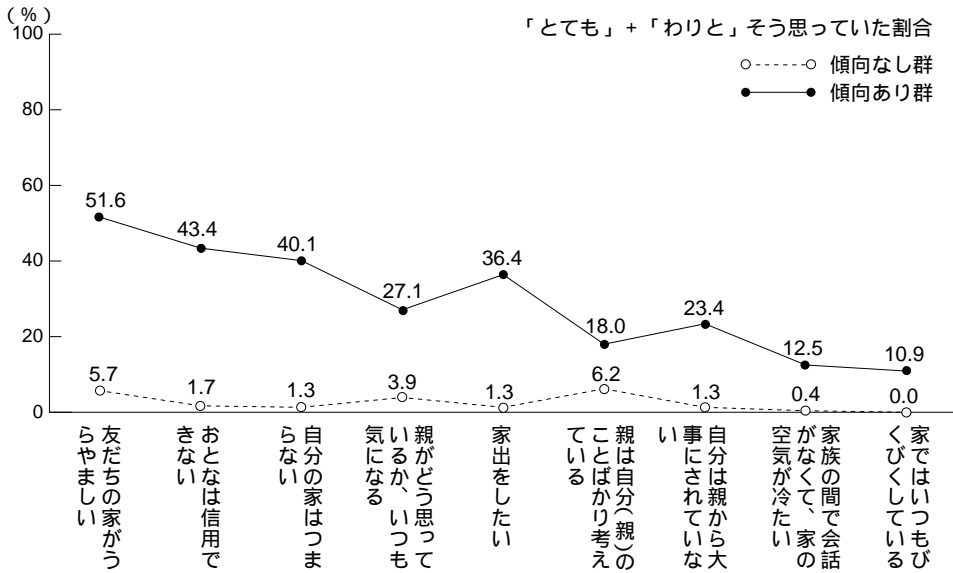
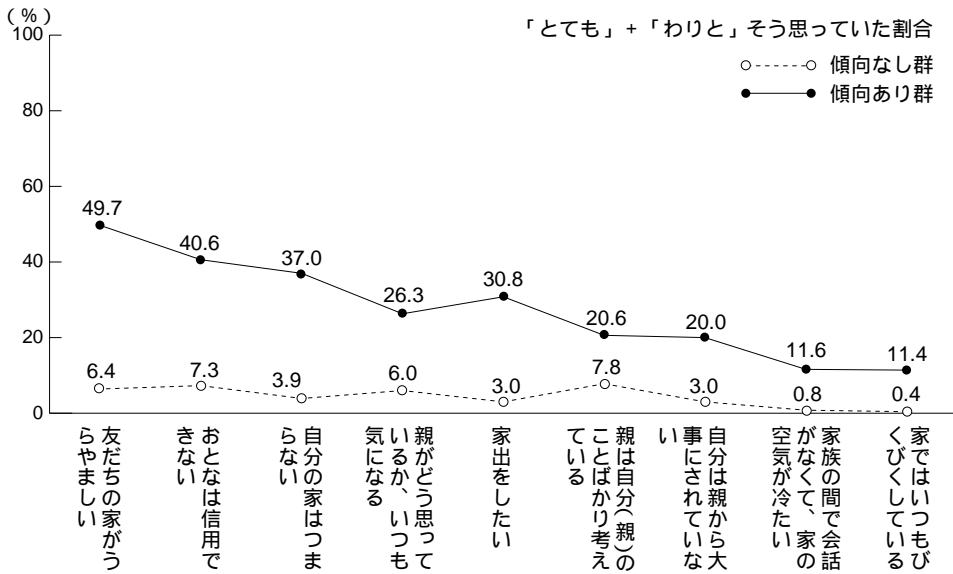


図3 - 6 子ども時代の家族感情 × アブユース傾向有無（身体的暴力）



4. アブユース傾向と現在の親や家庭への感情

アブユースを受けた子どもが、親や家族に対して抱く感情をみよう。

ここでは3つのアブユース別に、親への感情との関連をみている。子ども時代の感情「2人ともやさしい親(だった)」「親と出かけるのが楽し(かった)」と、現在の抱いている感情「自分の家族が好き」「家でがまんばかりしている」をみよう。

図3-7、図3-8、図3-9、図3-10に、まずネグレクトの有無と子どもの親に対する肯定的感情との関連を示した。

<ネグレクト>

図3-7、図3-8の子ども時代「2人ともやさしい親(だった)」「親と出かけるのが楽し(かった)」などの親や家族への肯定的感情の項目については、「アブユース傾向あり」群と「アブユース傾向なし」群の間に有意な差がみられる。図3-7「2人ともやさしい親だ」では、「アブユース傾向なし」群で84.0%（「とても+わりとそう思っていた」割合）、「アブユース傾向あり」群で48.3%と大きな差がみられる。また図3-9、図3-10が示すように、現在もその感情は持続していて、数値を拾ってみると（「現在」自分の家族が好き）に「とても+わりとそう」と答えた子は、「アブユース傾向なし」群で91.7%、「アブユース傾向あり」群では55.5%と大差である。

図3-7 2人ともやさしい親だ × アブユース傾向有無（ネグレクト）

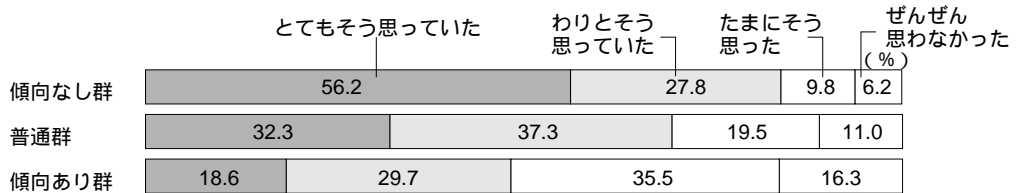


図3-8 親と出かけるのが楽しい × アブユース傾向有無（ネグレクト）

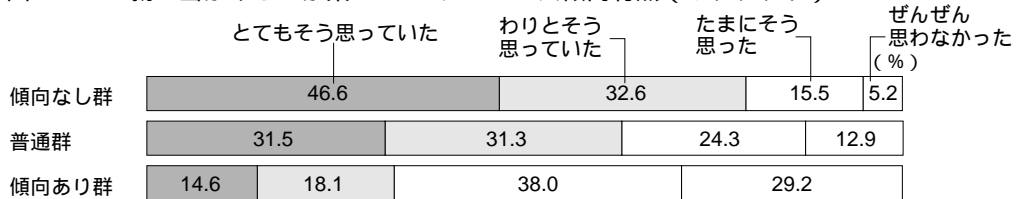


図3-9 自分の家族が好き × アブユース傾向有無（ネグレクト）

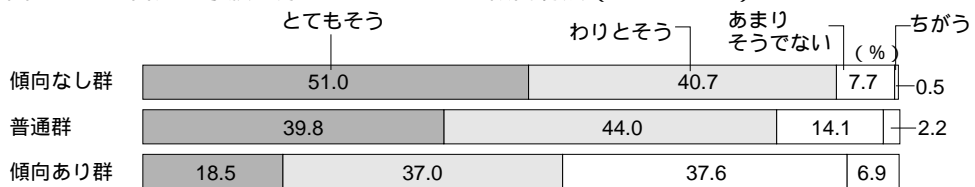
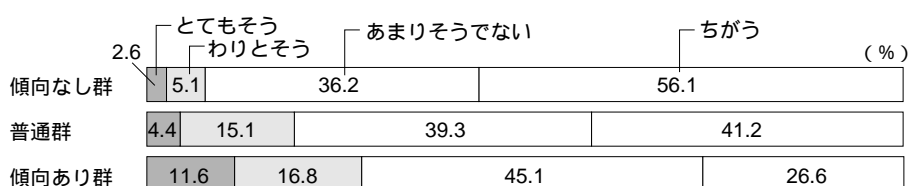


図3-10 家でがまんばかりしている × アブユース傾向有無（ネグレクト）



<精神的暴力>

ここでもネグレクトの場合と同じ傾向がみられ、全ての項目で有意な傾向がある。

また精神的暴力と親への感情との関連を図3 - 11、図3 - 12、図3 - 13、図3 - 14に示した。

図3 - 11 2人ともやさしい親だ × アブユース傾向有無 (精神的暴力)

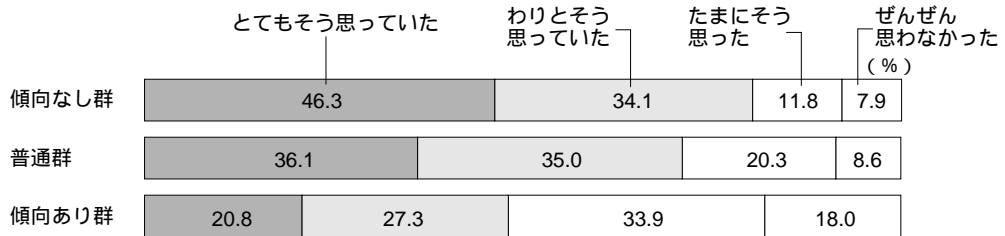


図3 - 12 親と出かけるのが楽しい × アブユース傾向有無 (精神的暴力)

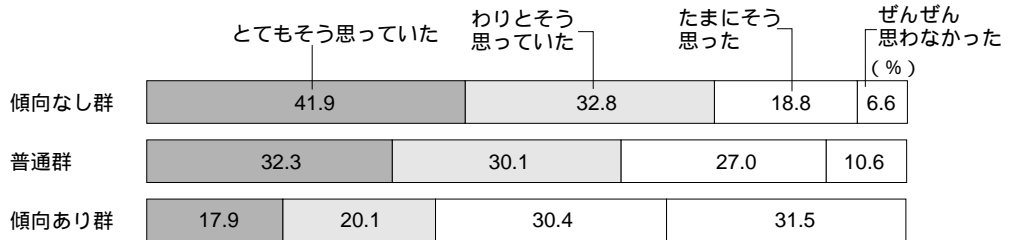


図3 - 13 自分の家族が好き × アブユース傾向有無 (精神的暴力)

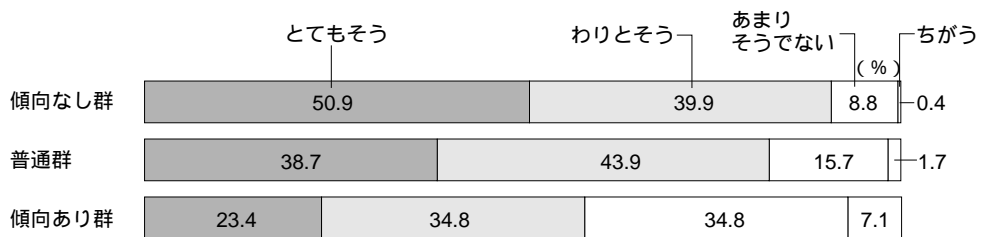
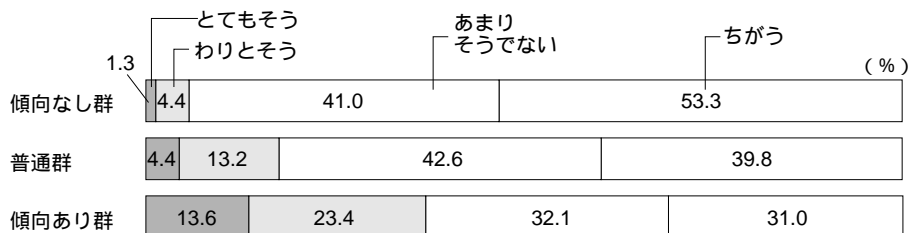


図3 - 14 家でがまんばかりしている × アブユース傾向有無 (精神的暴力)



<身体的暴力>

身体的暴力と親への感情との関連についても同様で、図3 - 15、図3 - 16、図3 - 17、図3 - 18によれば、全ての項目で有意な関連がみられる。

これらの結果から、アブユースの種類を問わず、アブユースを受けて育てられた子は、自分の親を否定的に捉える傾向が見いだされたことになる。

図3 - 15 2人ともやさしい親だ × アブユース傾向有無（身体的暴力）

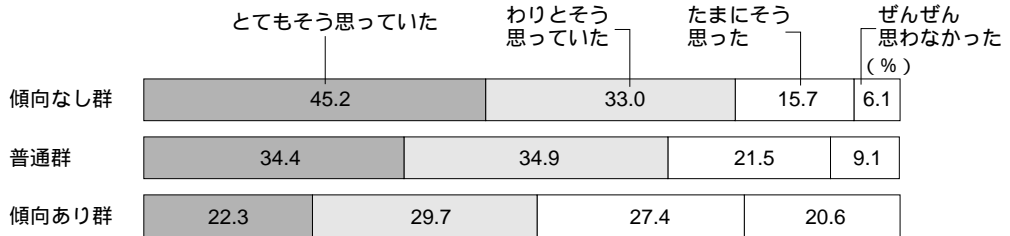


図3 - 16 親と出かけるのが楽しい × アブユース傾向有無（身体的暴力）

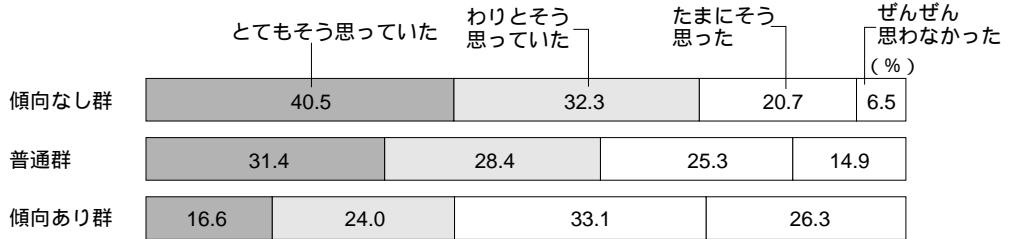


図3 - 17 自分の家族が好き × アブユース傾向有無（身体的暴力）

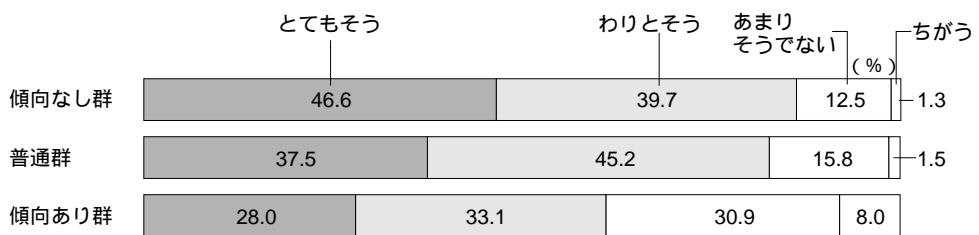
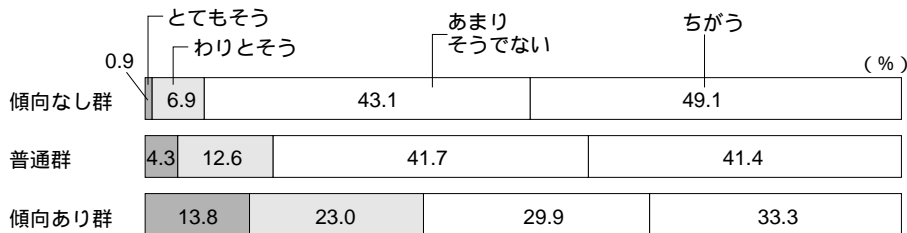


図3 - 18 家でがまんばかりしている × アブユース傾向有無（身体的暴力）



5. アブユース傾向と親から受けたやさしい世話

「親から受けた世話」に対する子どもの認識と親のアブユース傾向にはどのような関連があるか。アブユースの種類別に親から受けた世話との関連をみてみよう。親から受けた世話についての項目は表3-7にみるように9つある。これらは

子どもにとって、親から大切にされていると感じることのできる行為であろう。

<ネグレクト>

表3-7はネグレクトと親から受けた世話との関連である。9つの全ての項目で有意な差がみられる。「アブユース傾向あり」群は「アブユース傾向なし」群に比べ、世話してくれた親への感情が薄い。

表3-7 親から受けた世話 × アブユース傾向有無 (ネグレクト)

		(%)						
		た ゆ し よ だ つ つ ち	つ わ り と あ	り ゆ し と よ っ わ ち	あ つ き た ど き	つ た ま に あ	な ぜ か ん げ た ん	
親は、病気のときのあなたを一生懸命世話してくれた	傾向なし群	79.0	17.9	96.9	0.5	0.5	2.1	
	普通群	53.1	34.0	87.1	6.9	3.0	3.0	
	傾向あり群	27.7	38.2	65.9	16.2	13.3	4.6 ***	
親は、誕生日にプレゼントをくれた	傾向なし群	77.4	13.3	90.7	4.1	2.6	2.6	
	普通群	67.5	19.6	87.1	3.5	6.2	3.2	
	傾向あり群	52.0	24.9	76.9	7.5	8.1	7.5 ***	
親は、クリスマスにケーキを買ってくれた	傾向なし群	71.8	14.4	86.2	6.2	5.6	2.1	
	普通群	55.6	21.0	76.6	8.4	8.1	6.9	
	傾向あり群	41.4	21.8	63.2	12.1	12.6	12.1 ***	
親は、あなたの帰りが遅いと心配してくれた	傾向なし群	51.8	29.7	81.5	7.2	7.2	4.1	
	普通群	41.3	30.7	72.0	12.9	10.9	4.2	
	傾向あり群	23.7	28.9	52.6	20.2	20.8	6.4 ***	
親は、あなたのほしいものを買ってくれた	傾向なし群	27.7	35.4	63.1	26.2	9.7	1.0	
	普通群	18.8	30.9	49.7	31.9	15.1	3.5	
	傾向あり群	14.4	19.5	33.9	25.3	31.0	9.8 ***	
親は、あなたが好きなおやつを買って(用意して)くれた	傾向なし群	29.6	32.7	62.3	21.9	9.2	6.6	
	普通群	13.6	33.3	46.9	26.2	18.3	8.6	
	傾向あり群	10.9	16.7	27.6	24.1	28.7	19.5 ***	
親と手をつないで外へ出かけた	傾向なし群	27.7	17.9	45.6	17.4	16.9	20.0	
	普通群	19.8	19.5	39.3	18.8	20.5	21.5	
	傾向あり群	8.8	14.6	23.4	15.8	21.6	39.2 ***	
親にお風呂で体を洗ってもらった	傾向なし群	21.6	17.5	39.1	15.5	21.6	23.7	
	普通群	15.6	18.6	34.2	20.4	21.4	24.1	
	傾向あり群	7.0	11.7	18.7	17.5	23.4	40.4 ***	
親のひざの上にだっこしてもらった	傾向なし群	23.3	15.0	38.3	15.5	17.1	29.0	
	普通群	14.1	18.3	32.4	16.3	21.4	29.9	
	傾向あり群	7.6	9.9	17.5	13.5	19.9	49.1 ***	

*** p<.001

<精神的暴力>

また精神的暴力と親から受けた世話との関連については、表3-8に示した。「親は、病気のときのあなたを一生懸命世話してくれた」「親は、誕生日にプレゼントをくれた」「親は、クリスマスにケーキを買ってくれた」「親は、あなたが好きなおやつを買って(用意して)くれた」「親は、あなたのほしいものを買ってくれた」「親にお風呂

呂で体を洗ってもらった」ことが「しょっちゅう+わりとあった」と思っている子は、「アビュース傾向なし」群より「アビュース傾向あり」群の方が、低い値を示している。なお「親は、あなたの帰りが遅いと心配してくれた」「親と手をつないで外へ出かけた」「親のひざの上にだっこしてもらった」は、関連がみられなかった。

表3-8 親から受けた世話 × アビュース傾向有無(精神的暴力)

		(%)					
		たゆし うよ だつ つち	つわ たり と あ	りゆし とうよ + わち	あ つき た ど き	つ た ま に あ	な ぜ か ん ぜ た ん
親は、病気のときのあなたを一生懸命世話してくれた	傾向なし群	65.7	24.8	90.5	4.8	1.7	3.0
	普通群	57.0	31.1	88.1	6.1	3.3	2.5
	傾向あり群	33.9	36.6	70.5	14.2	11.5	3.8 ***
親は、誕生日にプレゼントをくれた	傾向なし群	71.2	16.6	87.8	6.6	3.5	2.2
	普通群	67.5	19.8	87.3	3.6	6.3	2.8
	傾向あり群	58.4	21.1	79.5	5.4	7.6	7.6 *
親は、クリスマスにケーキを買ってくれた	傾向なし群	62.2	16.5	78.7	9.6	7.0	4.8
	普通群	56.2	19.2	75.4	9.3	8.5	6.8
	傾向あり群	43.8	24.9	68.7	8.1	13.0	10.3 ***
親は、あなたの帰りが遅いと心配してくれた	傾向なし群	45.4	26.6	72.0	12.2	10.9	4.8
	普通群	40.5	29.9	70.4	14.5	11.0	4.1
	傾向あり群	34.2	28.3	62.5	15.2	14.7	7.6
親は、あなたのほしいものを買ってくれた	傾向なし群	21.7	35.2	56.9	26.5	13.9	2.6
	普通群	17.8	30.4	48.2	30.7	18.9	2.2
	傾向あり群	22.2	20.5	42.7	23.2	23.2	10.8 *
親は、あなたが好きなおやつを買って(用意して)くれた	傾向なし群	23.0	29.1	52.1	27.0	14.3	6.5
	普通群	13.5	33.8	47.3	25.0	20.1	7.7
	傾向あり群	16.8	22.7	39.5	18.4	22.2	20.0 ***
親と手をつないで外へ出かけた	傾向なし群	23.2	19.3	42.5	14.0	20.2	23.2
	普通群	18.3	16.9	35.2	19.1	21.6	24.1
	傾向あり群	15.5	17.7	33.2	21.0	12.7	33.1
親にお風呂で体を洗ってもらった	傾向なし群	17.1	16.7	33.8	17.1	23.2	25.9
	普通群	14.8	17.5	32.3	19.8	22.0	25.9
	傾向あり群	13.8	15.5	29.3	17.1	18.8	34.8 **
親のひざの上にだっこしてもらった	傾向なし群	15.9	19.5	35.4	13.7	15.5	35.4
	普通群	15.0	15.0	30.0	17.5	21.4	30.9
	傾向あり群	13.1	13.1	26.2	12.0	20.8	41.0

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

<身体的暴力>

身体的暴力についても同様である。表3 - 9をみると、「親は、病気のときのあなたを一生懸命世話してくれた」「親は、あなたのほしいものを買ってくれた」「親は、あなたが好きなおやつを買って(用意して)くれた」「親のひざの上にだっこしてもらった」ことが「しょっちゅう+わり

とあった」とする子は、身体的暴力を経験しなかったグループに多く、経験した群の方に低い。

アブユース傾向が高い子どもは、親から幸せで暖かい世話を受けたことが少ないと認識しており、親から何かをしてもらったと思える経験が少なかったことがわかる。

表3 - 9 親から受けた世話 × アブユース傾向有無(身体的暴力)

		(%)					
		た ゆ し よ っ ち う だ つ ち	つ わ り と あ	り ゆ し よ っ ち う + つ わ ち	あ と き た ど き	つ た ま に あ	な ぜ か ん つ げ た ん
親は、病気のときのあなたを一生懸命世話してくれた	傾向なし群	59.1	30.0	89.1	5.7	3.0	2.2
	普通群	55.3	33.1	88.4	5.8	2.8	3.0
	傾向あり群	42.4	29.7	72.1	12.8	9.9	5.2 ***
親は、誕生日にプレゼントをくれた	傾向なし群	71.0	16.9	87.9	4.8	5.2	2.2
	普通群	65.9	20.2	86.1	4.5	5.8	3.5
	傾向あり群	60.7	19.7	80.4	5.2	6.4	8.1
親は、クリスマスにケーキを買ってくれた	傾向なし群	62.2	17.8	80.0	7.8	6.1	6.1
	普通群	54.8	18.8	73.6	9.5	9.8	7.0
	傾向あり群	46.9	24.6	71.5	8.6	11.4	8.6
親は、あなたの帰りが遅いと心配してくれた	傾向なし群	44.5	28.8	73.3	10.0	11.4	5.2
	普通群	38.2	31.2	69.4	15.6	10.8	4.3
	傾向あり群	39.1	28.2	67.3	12.1	14.4	6.3
親は、あなたのほしいものを買ってくれた	傾向なし群	23.0	33.0	56.0	27.4	13.9	2.6
	普通群	17.8	29.6	47.4	30.4	19.3	2.8
	傾向あり群	20.0	24.6	44.6	24.0	22.3	9.1 **
親は、あなたが好きなおやつを買って(用意して)くれた	傾向なし群	19.4	32.3	51.7	25.9	15.5	6.9
	普通群	16.4	30.5	46.9	24.2	19.6	9.3
	傾向あり群	14.3	24.0	38.3	21.1	22.3	18.3 **
親と手をつないで外へ出かけた	傾向なし群	21.1	15.9	37.0	20.7	20.3	22.0
	普通群	18.7	20.5	39.2	15.4	18.4	27.0
	傾向あり群	16.3	12.2	28.5	22.1	18.0	31.4
親にお風呂で体を洗ってもらった	傾向なし群	16.5	15.2	31.7	21.6	18.6	28.1
	普通群	14.2	19.7	33.9	17.7	21.5	26.8
	傾向あり群	14.0	12.2	26.2	15.1	25.6	33.1
親のひざの上のだっこしてもらった	傾向なし群	16.9	17.3	34.2	17.7	14.7	33.3
	普通群	14.3	17.9	32.2	14.5	19.6	33.7
	傾向あり群	11.5	9.8	21.3	13.8	24.7	40.2 *

*** p<.001 ** p<.01 * p<.05

6. アブユース傾向と老後の親を世話したいか

「将来、親が年をとって体が弱くなったら、親の世話をどうしたいか」について、アブユースの種類別にみた。

表3 - 10、表3 - 11、表3 - 12が示すように、

「アブユース傾向なし」群は「同じ家に住んで、親の世話をしたい」と思う子が、「アブユース傾向あり」群よりどの種類のアブユースでも約2割も多い。アブユース傾向がある子どもは、将来親と一緒に住むことを拒否する傾向があり、当然のことかもしれないが、親への否定的感情の存在がわかる。

表3 - 10 将来の親の世話 × アブユース傾向有無（ネグレクト）

	同じ家に住んで、親の世話をしたい	親の家から遠くないところに住んで、できるだけ世話をしに行きたい	老人ホームなどの施設で、専門家に世話してほしい	(%)
傾向なし群	50.5	46.3	3.2	
普通群	41.6	53.6	4.7	
傾向あり群	26.6	55.6	17.8	***

*** p < .001

表3 - 11 将来の親の世話 × アブユース傾向有無（精神的暴力）

	同じ家に住んで、親の世話をしたい	親の家から遠くないところに住んで、できるだけ世話をしに行きたい	老人ホームなどの施設で、専門家に世話してほしい	(%)
傾向なし群	52.2	44.2	3.6	
普通群	37.8	56.9	5.2	
傾向あり群	30.6	54.1	15.3	***

*** p < .001

表3 - 12 将来の親の世話 × アブユース傾向有無（身体的暴力）

	同じ家に住んで、親の世話をしたい	親の家から遠くないところに住んで、できるだけ世話をしに行きたい	老人ホームなどの施設で、専門家に世話してほしい	(%)
傾向なし群	49.6	46.9	3.5	
普通群	38.3	55.3	6.3	
傾向あり群	30.8	54.7	14.5	***

*** p < .001

7. アブユース傾向と自分の将来展望

ではアブユースと子ども自身の将来展望はどうか。

表3 - 13、表3 - 14、表3 - 15をみると、自分の将来展望をみた「子どもをかわいがる親になる」「幸せになる」「いい家庭を作れる」「仕事で成功する」「一生、大きな病気はしない」の5つの項目は、3種類のどのアブユースでも、全ての項目で有意な差がみられる。どの項目でも「アブユース傾向あり」群は、「アブユース傾向なし」群に比べ、「とても+わりとそう思う」と回答する子が1割から2割低く、将来像が暗い。「子ど

もをかわいがる親になる」「いい家庭を作れる」の結果が示すように、アブユース傾向を受けて育つと、将来の家庭像、自分が親となったときのイメージが、自分の親への感情と重なって、否定的になるのである。

しかし驚いたことに、将来の家庭像だけでなく「幸せになる」「仕事で成功する」「一生、大きな病気はしない」などの、人生の幸福感や安心感、達成に関する展望についても影響がみられる。アブユースを受けることが、子どもの内界全体に暗い影をもたらすことがわかる。「生きる力」につながらともいえる自分の将来へのイメージにも、このような影響を及ぼすことを、全てのおとなが重大に受けとめなければならない。

表3 - 13 自分の将来像 × アブユース傾向有無（ネグレクト）

		(%)				
		とても そう思う	わりと そう思う	とても+ わりと	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
子どもをかわいがる親になる	傾向なし群	54.7	39.1	93.8	5.2	1.0
	普通群	44.1	46.1	90.2	6.8	3.0
	傾向あり群	35.7	44.6	80.3	15.5	4.2
幸せになる	傾向なし群	55.9	33.8	89.7	9.2	1.0
	普通群	42.2	44.7	86.9	11.3	1.8
	傾向あり群	38.7	33.9	72.6	22.6	4.8
いい家庭を作れる	傾向なし群	25.9	56.5	82.4	16.1	1.6
	普通群	21.2	55.6	76.8	19.4	3.8
	傾向あり群	18.3	37.9	56.2	37.3	6.5
仕事で成功する	傾向なし群	39.2	44.3	83.5	14.4	2.1
	普通群	29.8	41.8	71.6	24.3	4.3
	傾向あり群	32.4	30.6	63.0	30.0	7.1
一生、大きな病気はしない	傾向なし群	36.6	39.2	75.8	18.0	6.2
	普通群	27.6	33.8	61.4	28.1	10.5
	傾向あり群	30.8	30.2	61.0	27.2	11.8

*** p < .001 ** p < .01 * p < .05

表3 - 14 自分の将来像 × アブユース傾向有無（精神的暴力）

		(%)				
		とても そう思う	わりと そう思う	とても+ わりと	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
子どもをかわいがる親になる	傾向なし群	50.9	44.2	95.1	3.5	1.3
	普通群	43.7	45.7	89.4	9.0	1.7
	傾向あり群	42.2	36.7	78.9	15.6	5.6
幸せになる	傾向なし群	50.0	42.1	92.1	7.5	0.4
	普通群	41.4	42.5	83.9	14.7	1.4
	傾向あり群	45.6	29.4	75.0	20.0	5.0
いい家庭を作れる	傾向なし群	27.1	56.9	84.0	15.6	0.4
	普通群	17.5	54.9	72.4	24.5	3.1
	傾向あり群	24.3	36.5	60.8	30.9	8.3
仕事で成功する	傾向なし群	32.5	46.9	79.4	18.9	1.8
	普通群	32.5	40.0	72.5	23.1	4.4
	傾向あり群	34.8	31.0	65.8	27.7	6.5
一生、大きな病気はしない	傾向なし群	35.2	40.5	75.7	18.9	5.3
	普通群	29.0	33.7	62.7	27.9	9.5
	傾向あり群	29.5	26.2	55.7	27.3	16.9

*** p < .001 ** p < .01 * p < .05

表3 - 15 自分の将来像 × アブユース傾向有無（身体的暴力）

		(%)				
		とても そう思う	わりと そう思う	とても+ わりと	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
子どもをかわいがる親になる	傾向なし群	53.3	38.9	92.2	6.6	1.3
	普通群	43.2	47.6	90.8	6.2	3.1
	傾向あり群	38.8	40.0	78.8	17.1	4.1
幸せになる	傾向なし群	50.0	38.7	88.7	10.4	0.9
	普通群	43.3	44.1	87.4	10.3	2.3
	傾向あり群	39.2	32.2	71.4	24.6	4.1
いい家庭を作れる	傾向なし群	27.6	53.9	81.5	16.2	2.2
	普通群	18.5	55.3	73.8	22.4	3.9
	傾向あり群	20.9	40.7	61.6	32.6	5.8
仕事で成功する	傾向なし群	32.2	41.3	73.5	23.0	3.5
	普通群	32.6	43.5	76.1	20.1	3.8
	傾向あり群	33.5	29.5	63.0	30.6	6.4
一生、大きな病気はしない	傾向なし群	31.7	39.1	70.8	22.2	7.0
	普通群	30.2	35.8	66.0	24.8	9.2
	傾向あり群	29.7	22.7	52.4	32.0	15.7

*** p < .001 ** p < .01 * p < .05

まとめ

以上の結果が示すものは、親が子どもにするアブユースの、予想以上に重大で深刻な影響である。

親による不適切な扱いが子どもの自己像や子どもの頃の不幸せ感、親への感情（愛着）、将来像のすべてに、これほどまでにわたって、大きな影響を与えると、率直に言って予想せず、われわれは衝撃を受けた。

アブユースを受けた子どもたちは、家庭に自分の居場所がなく、自分が愛されているという実感をもてないでいる。と同時にアブユース傾向のある子どもは「キレやすい」「学校で友だちに気をつかう」など、基本的な人間関係づくりの難しさや感情のバランスの取り方が不得意なために、成長してからの友人関係がうまくいかなくなる。そのため、家庭だけでなく、学校での友人関係にも

自己の居場所を見いだせなくなる。さらにアブユースを受けた子どもたちは、親や友人とうまくいかない経験が重なってであろう、将来の家庭像やまた人生の目標、希望などに対してまでも、否定的な展望をもつようになる。

こうした結果はわれわれに、子どもを扱う際の日常的な配慮の必要性を改めて問いかける。一人ひとりの親が自分のしている行為や親子関係の意味を自覚して子育てにあたること、また、アブユース傾向のある親を周囲でどう発見し、親にどう適切な援助を与えることが必要か、また否定的な自己像や将来展望をもつ子どもをどう成長支援したらいいかについても、改めて方策を探る必要性があると思われる。

アンケートのお願い

これはテストではありません。全国の中学生にお願いして、中学生の生活の様子をうかがうアンケートです。思ったことをそのまま答えてください。

●回答のしかた●

あなたはカレーライスが好きですか。

とても かなり ふつう 少し とても
好き 好き 好き きらい きらい
1 ——— ② ——— 3 ——— 4 ——— 5

あなたがカレーライスを「かなり好き」だと思ったら、
上のように番号のところを○でかこんでください。

1 はじめに、あなたのことを聞きます。

- 1) 学校名…………… () 中学校
- 2) 学年……………中学 () 年
- 3) 性別…………… (1. 男子 2. 女子)
- 4) きょうだいは全部で何人ですか。(あなたも入れて)
(1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上)
- 5) あなたは上から何番目ですか。
上から(1. 1番目 2. 2番目 3. 3番目 4. 4番目 5. 5番目かそれ以外)

2 あなたは、現在どんな人ですか。

- | | とても
そう | わりと
そう | あまり
そうでない | ちがう |
|--|-----------|-----------|--------------|-----|
| 1. 明るくて、よく笑う…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. なにごとも積極的…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 勉強がとくい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 自分の家族が好き…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. キレやすい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 人の役に立たない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 気持ちが落ちこみやすい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 落ちつきがない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 家でがまんばかりしている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 学校でがまんばかりしている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 学校で友だちに気をつかう…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 仲よしの友だちでも自分の悪口を言っていないか、
気になる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

～これからは、あなたの子どものころのことを聞きます。～

3 あなたは、子どものころ(小学生やそれ以前)に、次のようなことがありましたか。
(ここで「親」とは、お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんなど、あなたを育ててくれていた人のことです)

- | | しよっちゅう
そうだった | わりと
そうだった | ときどき
あった | たまに
あった | ぜんぜん
なかった |
|---|-----------------|--------------|-------------|------------|--------------|
| 1. 私の服は、友だちにくらべて、あまり
きれいに洗濯されていなかった…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 何日もお風呂に入らず、同じ下着を着ていた…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

3. 私の服はボタンがとれたり、破けたままに
なっていた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
4. 朝ご飯が用意されていなくて、食べないで
学校に行った…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
5. 親が寝ていたので、学校にちこくした…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
6. 夕食の時間がおそくて、空腹だった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
7. 夕ご飯が、出前やカップラーメンや
コンビニ弁当だけだった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
8. 遠足のときのお弁当は、買ったお弁当だった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
9. 家の中が片づいていなくて、ゴミが散らかっ
ていた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
10. 親たちが両方とも夜おそくまで遊んでいて、
なかなか帰ってこなかった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
11. 親とパチンコ（または飲み屋など）に一緒に
行って、（外や近くや中で）待たされた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
12. 困ったことがあっても、親はあまり話を
聞いてくれなかった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
13. 日曜日に親やおとなが家にだれもいなくて、
子どもだけ（または自分だけ）で、夜まで
過ごした…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
14. 虫歯が何本か、なおさずそのままになって
いた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
15. 病気のとき、世話してくれる人がいなくて
1人で寝ていた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

16. 熱があったり頭やおなか痛があったりしても、
なかなか手当てをしてもらえなかった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
17. 親は、あなたが好きなおやつを買って
（用意して）くれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
18. 親は、たんじょう日にプレゼントをくれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
19. 親は、病気のときのあなたをいっしょうけんめい
世話してくれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

4. あなたには、小学生のころやそれ以前に、次のようなことがありましたか。
（ここで「親」とは、あなたを育ててくれた人のことです）

1. 親から「バカ」「ダメな子」「役立たず」
などと言われた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
2. 親から「出て行け」とどなられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
3. 親から「あなたなんか産まなければよかった」
「うちの子じゃない」などと言われた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
4. 親から無視されたり口をきいてもらえなかつ
りした…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
5. 親に自分の顔や体のことで、いやなことを
言われた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
6. 親に自分の性格のことで、いやなことを
言われた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
7. 親のきげんが悪いと、とつぜん大声で
どなられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

8. きょうだいの中に親のひいきがあって、
自分が差別された…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
9. 「男だから（女だから）こうしなさい」と
言われた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
10. 本当は行きたくなかった塾や習いごと
に行かされた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
11. ちょっと失敗しても、ひどく叱られた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
12. 成績が悪いと「ばつを与える」とおどかされた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
13. 親が、あなたとの約束をかんたんに破った…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
14. 親が、もう一人の親や家族の悪口を言った…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
15. 親たちが、ひどい口げんかをした…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
16. 親たちが、たたいたり物を投げたりという
すごいげんかをした…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
17. 家族の中で、お酒やパチンコ、競馬（どれか
1つでも）にだれかが夢中だった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
18. 家族のだれかが、家族の中で暴力を受けた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
19. 親は、あなたの帰りがおそいと心配してくれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
20. 親は、クリスマスにケーキを買ってくれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
21. 親は、あなたのほしいものを買ってくれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

5. あなたは、小学生のころやそれ以前に、親から次のようなことをされたことがありますか。（ここで「親」とは、あなたを育ててくれていた人のことです）

1. ほほをたたかれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
2. 頭や体のどこかをなぐられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
3. 体に物を投げつけられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
4. 体を足でけられたり、つきとばされたりした…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
5. 体をつねられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
6. 髪の毛を引っぱられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
7. 耳や腕などを強く引っぱられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
8. タバコや何かの火を体に押しつけられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
9. 体をしばられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
10. 押し入れや物置に入れられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
11. ばつとして、ご飯を抜かれた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
12. 長い時間、外に出されて、家に入れて
もらえなかった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
13. ばつとして、何か手伝いなどをやらされた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
14. ばつとして、長い時間、正座させられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
15. 夜、眠いのにも勉強させられ、なかなか
寝かせてもらえなかった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
16. ばつとして、髪の毛をむりやり切られた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
17. とつぜん、水をぶっかけられた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
18. 親のひざの上にだっこしてもらった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

19. 親と手をつないで外へ出かけた…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
しよっちゆう わりと ときどき たまに ぜんぜん
 だった あった あった あった なかった
20. 親にお風呂で体を洗ってもらった…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

6 あなたは、子どものころに次のような気持ちでいたことがありますか。
 (ここで「親」とは、あなたを育ててくれた人のことです)

1. 自分は親から大事にされていない…………… 1 — 2 — 3 — 4
とてもそう わりとそう たまにそう ぜんぜん
 思っていた 思っていた 思った 思わなかった
2. 友だちの家がうらやましい…………… 1 — 2 — 3 — 4
3. おとなは信用できない…………… 1 — 2 — 3 — 4
4. 親がどう思っているか、いつも気になる… 1 — 2 — 3 — 4
5. 親は自分(親)のことばかり考えている… 1 — 2 — 3 — 4
6. 自分の家はつまらない…………… 1 — 2 — 3 — 4
7. 家出をしたい…………… 1 — 2 — 3 — 4
8. 家族の間で会話がなくて、家の空気が
 冷たい…………… 1 — 2 — 3 — 4
9. 家ではいつもびくびくしている…………… 1 — 2 — 3 — 4
10. 2人ともやさしい親だ
 (1人のときはその人が) …………… 1 — 2 — 3 — 4
11. 親と出かけるのが楽しい…………… 1 — 2 — 3 — 4

7 あなたが小学生のころ、お父さんはどんな親でしたか。
 (1つだけ選んで○をつけてください)

1. 家族のために、夜おそくまで、自分の好きなこともしないでいっしょうけんめい働いていた
2. 仕事だけでなく、自分でも適当に楽しんだり遊んだりしていた
3. 仕事よりも、自分の楽しみや遊びに夢中だった
4. お父さんがいなかった

8 あなたが小学生のころ、お母さんはどんな親でしたか。
 (1つだけ選んで○をつけてください)

1. 家族のために、夜おそくまで、自分の好きなこともしないでいっしょうけんめい働いていた
2. 仕事や家事の間に、自分も適当に楽しんだり遊んだりしていた
3. 仕事や家事よりも、自分の楽しみや遊びに夢中だった
4. お母さんがいなかった

9 あなたは、親が年をとって、体が弱くなったらどうしたいですか。
 (1つだけ選んで○をつけてください)

1. できれば同じ家に住んで、親の世話をしたい
2. できれば親の家から遠くないところに住んで、できるだけ世話をしに行きたい
3. できれば老人ホームなどの施設で、専門家に世話してほしい

10 あなたの将来は、どうなると思いますか。

1. いい家庭をつくれる…………… 1 — 2 — 3 — 4
とても わりと あまり ぜんぜん
 そう思う そう思う そう思わない そう思わない
2. 一生、大きな病気はしない…………… 1 — 2 — 3 — 4
3. 子どもをかわいがる親になる…………… 1 — 2 — 3 — 4
4. しあわせになる…………… 1 — 2 — 3 — 4
5. 仕事で成功する…………… 1 — 2 — 3 — 4

～これで終わりです。どうもありがとうございました。～

資料2 学年・性別集計表

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	3年	
サンプル数		824	350	474	737	87	
1	学年	1. 1年	737	310	427		
		2. 3年	87	40	47		
	性	1. 男子	350				
		2. 女子	474				
	全部で何人か	1. 1人	11.6	10.0	12.7	11.5	11.6
		2. 2人	49.6	49.7	49.6	49.7	48.8
		3. 3人	32.8	34.9	31.4	33.3	29.1
		4. 4人	4.5	3.7	5.1	4.1	8.1
		5. 5人以上	1.5	1.7	1.3	1.4	2.3
	あなたを上か何番目か	1. 1番目	40.9	42.8	39.4	40.6	43.0
2. 2番目		41.8	40.5	42.8	42.5	36.0	
3. 3番目		15.2	14.7	15.7	14.9	18.6	
4. 4番目		1.5	1.4	1.5	1.4	2.3	
5. 5番目かそれ以外		0.6	0.6	0.6	0.7	0.0	
2	よく明るく笑う	1. とてもそう	33.1	27.3	37.4	33.3	31.8
		2. わりとそう	50.4	49.1	51.4	50.4	50.6
		3. あまりそうでない	14.8	20.6	10.6	14.8	15.3
		4. ちがう	1.6	2.9	0.6	1.5	2.4
	積極的	1. とてもそう	7.2	7.5	6.9	7.2	7.1
		2. わりとそう	36.0	34.8	36.9	34.9	45.2
		3. あまりそうでない	49.0	46.7	50.6	49.7	42.9
		4. ちがう	7.9	11.0	5.6	8.3	4.8
	勉強が得意	1. とてもそう	2.9	5.2	1.3	3.0	2.4
		2. わりとそう	15.2	20.0	11.7	15.3	14.3
		3. あまりそうでない	46.6	45.5	47.4	45.3	58.3
		4. ちがう	35.2	29.3	39.6	36.4	25.0
	自分の家族が好き	1. とてもそう	37.9	29.7	43.8	39.4	24.7
		2. わりとそう	41.0	46.4	37.0	40.8	42.4
		3. あまりそうでない	18.3	21.3	16.2	17.7	23.5
		4. ちがう	2.8	2.6	3.0	2.1	9.4
	キレイやすい	1. とてもそう	11.5	14.5	9.3	12.3	4.7
		2. わりとそう	30.6	28.7	32.1	31.1	27.1
		3. あまりそうでない	41.9	40.9	42.7	41.0	49.4
		4. ちがう	15.9	15.9	15.9	15.6	18.8
	人の役に立たない	1. とてもそう	6.8	9.4	4.9	6.4	1.0
		2. わりとそう	35.5	36.8	34.6	36.2	29.3
		3. あまりそうでない	49.9	46.8	52.3	49.8	51.2
		4. ちがう	7.7	7.1	8.2	7.6	8.5
	気持ちいい	1. とてもそう	13.4	9.0	16.6	12.6	20.0
		2. わりとそう	29.3	24.0	33.3	29.0	31.8
		3. あまりそうでない	37.9	43.9	33.5	38.9	29.4
		4. ちがう	19.4	23.1	16.6	19.5	18.8
落ちない	1. とてもそう	16.1	18.3	14.5	16.0	16.5	
	2. わりとそう	33.7	37.1	31.3	34.2	29.4	
	3. あまりそうでない	36.0	33.6	37.7	35.8	37.6	
	4. ちがう	14.2	11.0	16.6	14.0	16.5	
いばる	1. とてもそう	5.5	5.8	5.3	5.2	8.2	
	2. わりとそう	13.2	15.1	11.9	12.0	23.5	
	3. あまりそうでない	39.3	44.3	35.7	39.3	40.0	
	4. ちがう	41.9	34.8	47.1	43.5	28.2	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	3年	
2	あなたはどんな人か てん学校 いるばかりが りしま かうち学校 うに友だ 気をつた	1. とてもそう	7.0	8.4	6.0	6.8	8.2
		2. わりとそう	16.3	18.0	15.1	16.7	12.9
		3. あまりそうでない	45.9	42.9	48.1	45.5	49.4
		4. ちがう	30.8	30.7	30.9	31.0	29.4
	る口だ仲 がちよ がちし 気でも な悪友	1. とてもそう	9.0	7.9	9.8	9.6	3.6
		2. わりとそう	37.8	38.9	37.0	38.2	34.5
		3. あまりそうでない	41.3	42.1	40.6	40.5	47.6
		4. ちがう	11.9	11.1	12.6	11.7	14.3
	る口だ仲 がちよ がちし 気でも な悪友	1. とてもそう	21.1	15.1	25.5	21.9	14.1
		2. わりとそう	28.1	23.0	31.8	27.8	30.6
		3. あまりそうでない	29.6	35.8	25.1	28.5	38.8
		4. ちがう	21.2	26.2	17.6	21.8	16.5
3	てい友 いに、だ な洗服 か濯ち かつさ たれ比 たれべ	1. しょっちゅうそうだった	0.3	0.3	0.2	0.3	0.0
		2. わりとそうだった	0.5	0.6	0.4	0.4	1.2
		3. ときどきあった	4.0	5.1	3.2	3.6	7.1
		4. たまにあった	12.8	19.1	8.2	12.3	16.7
		5. ぜんぜんなかった	82.5	74.9	88.0	83.4	75.0
	じに何 下入 着ら だも っお た風 た呂	1. しょっちゅうそうだった	0.2	0.3	0.2	0.1	1.2
		2. わりとそうだった	0.7	1.5	0.2	0.7	1.2
		3. ときどきあった	0.6	1.2	0.2	0.6	1.2
		4. たまにあった	3.9	4.2	3.7	3.5	7.1
		5. ぜんぜんなかった	94.5	92.9	95.7	95.1	89.3
	つけと服 てたれの いまたり まに、ボ な破タン が	1. しょっちゅうそうだった	0.4	0.6	0.2	0.4	0.0
		2. わりとそうだった	1.0	2.3	0.0	1.0	1.2
		3. ときどきあった	4.0	6.4	2.3	4.0	4.8
		4. たまにあった	17.3	22.1	13.8	16.4	25.0
		5. ぜんぜんなかった	77.3	68.6	83.7	78.2	69.0
	登校した て、朝 、食されて べい用 ずい意 なくが	1. しょっちゅうそうだった	3.1	4.0	2.3	2.7	5.9
		2. わりとそうだった	2.1	2.0	2.1	2.3	0.0
		3. ときどきあった	4.2	5.2	3.4	4.1	4.7
		4. たまにあった	10.3	11.8	9.1	9.6	16.5
		5. ぜんぜんなかった	80.4	76.9	83.0	81.3	72.9
	刻の親 したで 学が 校寝 にて 遅いた	1. しょっちゅうそうだった	0.5	0.3	0.6	0.5	0.0
		2. わりとそうだった	0.7	1.2	0.4	0.7	1.2
		3. ときどきあった	2.7	3.8	1.9	2.6	3.5
		4. たまにあった	12.3	15.3	10.0	11.5	18.8
		5. ぜんぜんなかった	83.8	79.5	87.0	84.7	76.5
	空が夕 腹遅食 だくての った時間	1. しょっちゅうそうだった	1.7	2.3	1.3	1.5	3.5
		2. わりとそうだった	2.6	2.0	3.0	2.3	4.7
		3. ときどきあった	7.9	12.5	4.5	7.7	9.4
		4. たまにあった	24.7	26.4	23.5	24.7	24.7
		5. ぜんぜんなかった	63.1	56.8	67.8	63.8	57.6
	だけやカ だコンッ っビープ た弁当メン や	1. しょっちゅうそうだった	0.6	0.6	0.6	0.5	1.2
		2. わりとそうだった	1.7	2.3	1.3	1.9	0.0
		3. ときどきあった	5.9	8.1	4.3	5.8	7.1
		4. たまにあった	25.1	29.3	22.0	24.6	29.4
		5. ぜんぜんなかった	66.7	59.7	71.9	67.2	62.4
	たお遠 もの足の だはど った買き つたつ	1. しょっちゅうそうだった	1.5	2.3	0.8	1.6	0.0
2. わりとそうだった		1.5	2.6	0.6	1.6	0.0	
3. ときどきあった		1.8	2.3	1.5	1.8	2.4	
4. たまにあった		6.4	9.9	3.8	5.6	12.9	
5. ぜんぜんなかった		88.8	82.9	93.2	89.3	84.7	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	3年		
3	子どもの頃に次のようなことがあったか	ゴミが散らかって	1. しょっちゅうそうだった	3.3	5.0	2.1	3.6	1.2
		家の中間が片づいていない	2. わりとそうだった	4.4	5.3	3.8	4.4	4.8
		3. ときどきあった	5.4	7.3	4.0	5.3	6.0	
		か	4. たまにあった	20.2	21.1	19.5	20.3	19.0
		つ	5. ぜんぜんなかった	66.7	61.4	70.5	66.4	69.0
		て	1. しょっちゅうそうだった	0.4	0.3	0.4	0.4	0.0
		ま	2. わりとそうだった	0.4	0.3	0.4	0.4	0.0
		で	3. ときどきあった	2.5	3.2	1.9	1.9	7.1
		帰	4. たまにあった	7.2	9.0	6.0	7.3	7.1
		つ	5. ぜんぜんなかった	89.6	87.2	91.3	90.0	85.9
		た	1. しょっちゅうそうだった	0.6	0.0	1.1	0.7	0.0
		さ	2. わりとそうだった	0.7	1.2	0.4	0.8	0.0
		れ	3. ときどきあった	1.7	2.3	1.3	1.4	4.7
		た	4. たまにあった	5.4	6.6	4.5	5.2	7.1
		行	5. ぜんぜんなかった	91.6	89.9	92.8	91.9	88.2
		く	1. しょっちゅうそうだった	1.7	1.2	2.1	1.9	0.0
		な	2. わりとそうだった	1.8	1.7	1.9	1.5	4.8
		か	3. ときどきあった	3.3	3.5	3.2	3.2	4.8
		つ	4. たまにあった	12.4	11.9	12.8	12.0	16.7
		た	5. ぜんぜんなかった	80.7	81.7	79.9	81.5	73.8
		た	1. しょっちゅうそうだった	1.2	1.5	1.1	1.4	0.0
		夜	2. わりとそうだった	1.2	1.2	1.3	1.1	2.4
		ま	3. ときどきあった	5.9	8.4	4.0	5.3	10.7
		で	4. たまにあった	18.7	23.0	15.5	17.9	25.0
		過	5. ぜんぜんなかった	73.0	66.0	78.1	74.3	61.9
		こ	1. しょっちゅうそうだった	1.1	0.9	1.3	1.0	2.4
		し	2. わりとそうだった	2.3	2.0	2.6	1.8	7.1
		て	3. ときどきあった	3.6	4.9	2.6	2.5	12.9
		い	4. たまにあった	17.9	20.9	15.7	17.4	22.4
		ま	5. ぜんぜんなかった	75.1	71.3	77.9	77.4	55.3
か	1. しょっちゅうそうだった	0.7	0.3	1.1	0.7	1.2		
つ	2. わりとそうだった	1.1	1.2	1.1	1.0	2.4		
た	3. ときどきあった	2.0	3.8	0.6	1.6	4.7		
人	4. たまにあった	11.4	14.8	8.9	11.0	15.3		
が	5. ぜんぜんなかった	84.8	80.0	88.3	85.8	76.5		
い	1. しょっちゅうそうだった	1.2	1.2	1.3	1.1	2.3		
な	2. わりとそうだった	1.3	1.7	1.1	1.4	1.2		
か	3. ときどきあった	2.0	2.0	1.9	1.9	2.3		
つ	4. たまにあった	10.0	12.4	8.3	9.7	12.8		
た	5. ぜんぜんなかった	85.4	82.7	87.4	85.9	81.4		
れ	1. しょっちゅうそうだった	16.6	10.6	21.1	17.1	12.9		
つ	2. わりとそうだった	29.4	21.6	35.2	30.6	18.8		
を	3. ときどきあった	24.2	27.0	22.2	23.8	28.2		
買	4. たまにあった	19.1	25.6	14.3	18.2	27.1		
っ	5. ぜんぜんなかった	10.6	15.2	7.2	10.4	12.9		
て	1. しょっちゅうそうだった	66.2	61.4	69.7	66.3	65.1		
く	2. わりとそうだった	19.2	19.4	19.0	19.4	17.4		
レ	3. ときどきあった	4.8	6.1	3.8	4.7	5.8		
ゼ	4. たまにあった	5.8	6.7	5.1	5.8	5.8		
ン	5. ぜんぜんなかった	4.1	6.4	2.4	3.9	5.8		
ト								
を								

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	3年	
3	親は病気のあなたを 「生懸命話を してくれ た」と	1. しょっちゅうそうだった	53.5	44.3	60.2	54.5	44.6
		2. わりとそうだった	31.5	35.6	28.5	31.1	34.9
		3. ときどきあった	7.3	9.3	5.8	6.7	12.0
		4. たまにあった	4.6	6.7	3.0	4.5	4.8
		5. ぜんぜんなかった	3.2	4.1	2.6	3.2	3.6
4	「メな子」「バカ」「 たず」「など」と 言われた	1. しょっちゅうだった	8.7	8.1	9.2	8.2	12.8
		2. わりとあった	6.4	6.3	6.4	6.9	2.3
		3. ときどきあった	13.5	15.6	12.0	13.9	10.5
		4. たまにあった	26.1	26.5	25.9	26.5	23.3
		5. ぜんぜんなかった	45.3	43.5	46.6	44.6	51.2
	「親から」「出 た」と 行かれた	1. しょっちゅうだった	5.5	5.7	5.3	5.6	4.7
		2. わりとあった	4.2	5.2	3.4	4.1	4.7
		3. ときどきあった	7.0	7.5	6.6	6.7	9.3
		4. たまにあった	24.8	25.9	24.0	24.7	25.6
		5. ぜんぜんなかった	58.6	55.7	60.7	58.9	55.8
	「あなたなにか 産まなければ どよかった」と 言われた	1. しょっちゅうだった	1.8	1.7	1.9	1.8	2.3
		2. わりとあった	1.5	1.4	1.5	1.5	1.2
		3. ときどきあった	2.9	2.6	3.2	3.0	2.3
		4. たまにあった	8.3	6.9	9.4	7.4	16.3
		5. ぜんぜんなかった	85.4	87.3	84.0	86.3	77.9
	「親に無視され たり口をきか れなかった」と 言われた	1. しょっちゅうだった	2.3	2.0	2.6	2.2	3.5
		2. わりとあった	2.2	2.3	2.1	2.2	2.3
		3. ときどきあった	4.5	4.9	4.3	4.5	4.7
		4. たまにあった	18.1	15.5	20.0	18.2	17.4
		5. ぜんぜんなかった	72.9	75.3	71.1	73.0	72.1
	「親に自分の顔 をでやられた」と 言われた	1. しょっちゅうだった	2.6	1.7	3.2	2.5	3.5
		2. わりとあった	1.5	1.4	1.5	1.1	4.7
		3. ときどきあった	2.9	2.9	3.0	2.7	4.7
		4. たまにあった	10.6	8.6	12.1	10.0	16.3
		5. ぜんぜんなかった	82.4	85.3	80.3	83.8	70.9
	「親に自分の性 格のことを言 われた」と	1. しょっちゅうだった	3.4	2.9	3.8	2.7	9.3
		2. わりとあった	3.2	2.3	3.8	3.3	2.3
		3. ときどきあった	6.4	6.3	6.4	6.1	8.1
		4. たまにあった	22.2	19.5	24.3	22.3	22.1
		5. ぜんぜんなかった	64.8	69.0	61.7	65.6	58.1
	「親の機嫌が悪 いと、突然大 声でどなられ た」と	1. しょっちゅうだった	6.0	6.0	6.0	5.6	9.4
		2. わりとあった	4.7	5.5	4.1	4.5	5.9
		3. ときどきあった	8.7	9.8	7.9	8.9	7.1
		4. たまにあった	19.6	17.8	21.0	20.0	16.5
		5. ぜんぜんなかった	61.0	60.9	61.0	61.0	61.2
「中きょうだ いがあってひ いさしの差 が大きい」と	1. しょっちゅうだった	1.9	1.4	2.2	1.9	1.2	
	2. わりとあった	2.6	2.9	2.4	2.6	2.4	
	3. ときどきあった	3.8	3.2	4.3	3.2	9.5	
	4. たまにあった	14.4	12.4	15.9	15.3	7.1	
	5. ぜんぜんなかった	77.3	80.1	75.2	77.0	79.8	
「男だからこ う言われた」と	1. しょっちゅうだった	7.2	4.6	9.1	7.1	8.1	
	2. わりとあった	5.6	4.3	6.6	5.9	3.5	
	3. ときどきあった	8.8	7.8	9.6	8.2	14.0	
	4. たまにあった	30.7	26.5	33.8	30.9	29.1	
	5. ぜんぜんなかった	47.7	56.8	41.0	48.0	45.3	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	3年		
4	小学生の頃やそれ以前に、次のようなことがあったか	行やく本 か習な当 されなは たごた行 にたきた に塾た	1. しょっちゅうだった	5.1	6.3	4.3	5.6	1.2
		2. わりとあった	4.4	4.0	4.7	4.5	3.5	
		3. ととききあった	4.9	6.9	3.4	5.3	1.2	
		4. たまにあった	14.8	16.7	13.4	14.9	14.0	
		5. ぜんぜんなかった	70.7	66.0	74.2	69.6	80.2	
		叱ち らよ れつ たも たひと だ失 く敗	1. しょっちゅうだった	2.8	2.0	3.4	2.5	5.8
		2. わりとあった	3.3	3.5	3.2	3.3	3.5	
		3. ととききあった	3.9	4.0	3.8	4.0	3.5	
		4. たまにあった	16.7	17.9	15.7	17.3	11.6	
		5. ぜんぜんなかった	73.3	72.5	73.8	73.0	75.6	
		た「成 とおど績 かかさいが れ悪いと	1. しょっちゅうだった	3.3	4.3	2.6	3.3	3.5
		2. わりとあった	2.1	2.9	1.5	2.2	1.2	
		3. ととききあった	2.9	3.2	2.8	3.1	1.2	
		4. たまにあった	7.3	8.4	6.6	7.7	4.7	
		5. ぜんぜんなかった	84.3	81.3	86.6	83.7	89.5	
		単との親 にのが 破約あ つ束な た簡た	1. しょっちゅうだった	3.7	3.8	3.6	3.3	7.1
		2. わりとあった	3.9	4.3	3.6	4.0	3.5	
		3. ととききあった	5.9	6.7	5.3	5.8	7.1	
		4. たまにあった	24.7	26.7	23.2	23.9	31.8	
		5. ぜんぜんなかった	61.8	58.6	64.2	63.1	50.6	
たの親 の悪が 口親 を言や つ家 族	1. しょっちゅうだった	3.7	2.9	4.3	3.4	6.0		
2. わりとあった	4.6	3.5	5.4	4.7	3.6			
3. ととききあった	6.2	6.4	6.0	5.8	9.6			
4. たまにあった	17.9	14.6	20.3	18.3	14.5			
5. ぜんぜんなかった	67.7	72.6	64.0	67.8	66.3			
しい親 た口た げち んが かひ かを	1. しょっちゅうだった	4.6	4.1	4.9	4.1	8.4		
2. わりとあった	4.7	3.5	5.6	4.7	4.8			
3. ととききあった	7.8	10.2	6.0	6.9	15.7			
4. たまにあった	32.5	30.5	33.9	31.9	37.3			
5. ぜんぜんなかった	50.5	51.7	49.6	52.4	33.7			
かたり親 をす物た しいをち い投げた けんたい	1. しょっちゅうだった	2.0	1.7	2.1	1.5	5.9		
2. わりとあった	1.4	0.9	1.7	1.2	2.4			
3. ととききあった	2.5	2.0	2.8	2.1	5.9			
4. たまにあった	9.5	7.2	11.1	9.1	12.9			
5. ぜんぜんなかった	84.8	88.2	82.3	86.1	72.9			
が馬パ家 いにチ族 いたンにお 夢ンコ酒 中な・や な人競	1. しょっちゅうだった	9.0	9.9	8.4	9.1	8.4		
2. わりとあった	6.0	8.2	4.5	6.1	6.0			
3. ととききあった	5.7	5.5	5.8	4.7	14.5			
4. たまにあった	12.1	10.2	13.5	12.7	7.2			
5. ぜんぜんなかった	67.2	66.2	67.9	67.5	63.9			
力家 を受族 けたの で誰 が暴	1. しょっちゅうだった	3.2	3.5	3.0	2.5	9.3		
2. わりとあった	2.5	2.3	2.6	2.6	1.2			
3. ととききあった	3.9	4.1	3.8	4.1	2.3			
4. たまにあった	10.3	11.9	9.2	9.9	14.0			
5. ぜんぜんなかった	80.1	78.3	81.4	80.9	73.3			
れとの親 た心帰 配は してあ 遅な くいた	1. しょっちゅうだった	39.7	31.7	45.6	40.9	29.8		
2. わりとあった	29.8	30.2	29.4	29.6	31.0			
3. ととききあった	13.7	15.1	12.6	13.3	16.7			
4. たまにあった	11.9	16.9	8.3	11.2	17.9			
5. ぜんぜんなかった	4.9	6.1	4.1	4.9	4.8			

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	3年	
4	買ス親 つては てケ く れキ たを マ	1. しょっちゅうだった	55.3	50.1	59.1	55.1	57.0
		2. わりとあった	19.6	18.7	20.3	20.5	11.6
		3. ととききあった	9.1	11.5	7.2	9.2	8.1
		4. たまにあった	9.1	10.1	8.3	8.6	12.8
		5. ぜんぜんなかった	7.0	9.5	5.1	6.6	10.5
	買ほ親 つしは てい くも れの たの	1. しょっちゅうだった	19.7	13.0	24.7	20.3	15.1
		2. わりとあった	29.0	26.8	30.7	29.0	29.1
		3. ととききあった	28.4	28.2	28.6	28.9	24.4
		4. たまにあった	18.6	26.2	13.0	18.1	23.3
		5. ぜんぜんなかった	4.2	5.8	3.0	3.7	8.1
5	れほ たほ をた たか	1. しょっちゅうだった	3.1	3.2	3.0	3.0	3.6
		2. わりとあった	3.3	4.4	2.6	3.0	6.0
		3. ととききあった	7.2	8.7	6.2	7.8	2.4
		4. たまにあった	27.5	29.4	26.2	27.9	23.8
		5. ぜんぜんなかった	58.8	54.4	62.1	58.2	64.3
	たか頭 をや な体 ぐの らど れこ	1. しょっちゅうだった	3.9	4.1	3.8	3.7	5.9
		2. わりとあった	5.3	6.1	4.7	5.3	4.7
		3. ととききあった	7.4	9.3	6.0	7.7	4.7
		4. たまにあった	25.4	27.0	24.3	24.9	29.4
		5. ぜんぜんなかった	58.0	53.6	61.3	58.4	55.3
	つ体 けに ら物 れた たを 投げ	1. しょっちゅうだった	2.1	1.2	2.8	1.8	4.8
		2. わりとあった	2.3	2.9	1.9	2.1	4.8
		3. ととききあった	2.8	3.8	2.1	3.0	1.2
		4. たまにあった	12.5	10.8	13.8	11.8	19.0
		5. ぜんぜんなかった	80.2	81.4	79.4	81.4	70.2
	しとれ たばを さたり され足 たりで りつけ りき	1. しょっちゅうだった	2.2	1.2	3.0	1.9	4.8
		2. わりとあった	2.0	2.6	1.5	1.8	3.6
		3. ととききあった	3.7	4.7	3.0	3.8	2.4
		4. たまにあった	12.1	11.9	12.3	11.9	14.3
		5. ぜんぜんなかった	80.0	79.7	80.3	80.6	75.0
	た体 をつ ねら れ	1. しょっちゅうだった	1.8	1.2	2.3	1.6	3.5
		2. わりとあった	2.3	3.2	1.7	1.8	7.1
		3. ととききあった	4.4	5.8	3.4	4.4	4.7
		4. たまにあった	12.9	12.2	13.4	13.4	8.2
		5. ぜんぜんなかった	78.5	77.7	79.1	78.8	76.5
	ば髪 ら毛 れた を引 つ	1. しょっちゅうだった	1.5	0.3	2.3	1.2	3.5
		2. わりとあった	1.1	1.7	0.6	0.8	3.5
		3. ととききあった	1.7	2.0	1.5	1.6	2.4
		4. たまにあった	9.8	7.2	11.7	9.6	11.8
		5. ぜんぜんなかった	85.9	88.7	83.9	86.7	78.8
れ強耳 たく 引腕 つ等 ばら を	1. しょっちゅうだった	1.2	0.6	1.7	1.0	3.6	
	2. わりとあった	1.1	1.5	0.9	0.7	4.8	
	3. ととききあった	3.4	4.1	3.0	3.7	1.2	
	4. たまにあった	9.3	9.0	9.6	9.5	8.3	
	5. ぜんぜんなかった	84.9	84.9	84.9	85.2	82.1	
しのタ つ火 けを らバ れたコ 何や か押 か	1. しょっちゅうだった	0.2	0.0	0.4	0.3	0.0	
	2. わりとあった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3. ととききあった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	4. たまにあった	0.4	0.3	0.4	0.1	2.4	
	5. ぜんぜんなかった	99.4	99.7	99.2	99.6	97.6	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	3年	
5	体をしぼられた	1. しょっちゅうだった	0.2	0.0	0.4	0.3	0.0
		2. わりとあった	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0
		3. ときどきあった	0.4	0.9	0.0	0.3	1.2
		4. たまにあった	0.2	0.3	0.2	0.3	0.0
		5. ぜんぜんなかった	99.0	98.8	99.1	99.0	98.8
	物押し入れに入れられた	1. しょっちゅうだった	1.2	1.2	1.3	1.0	3.5
		2. わりとあった	0.6	0.9	0.4	0.5	1.2
		3. ときどきあった	1.1	0.6	1.5	1.0	2.4
		4. たまにあった	5.6	4.6	6.4	5.9	3.5
		5. ぜんぜんなかった	91.4	92.8	90.4	91.7	89.4
	罰として食べ物を抜かれた	1. しょっちゅうだった	0.7	1.2	0.4	0.8	0.0
		2. わりとあった	0.2	0.3	0.2	0.3	0.0
		3. ときどきあった	1.4	2.0	0.9	1.0	4.7
		4. たまにあった	7.4	8.7	6.4	7.3	8.2
		5. ぜんぜんなかった	90.3	87.8	92.1	90.7	87.1
	長い時間、家外に出されてしまった	1. しょっちゅうだった	1.2	0.6	1.7	1.2	1.2
		2. わりとあった	1.0	2.0	0.2	1.1	0.0
		3. ときどきあった	4.5	5.2	4.0	4.2	7.1
		4. たまにあった	14.5	14.5	14.5	14.4	15.3
		5. ぜんぜんなかった	78.8	77.7	79.6	79.0	76.5
	手罰として何かが伝えられた	1. しょっちゅうだった	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4
		2. わりとあった	2.6	3.8	1.7	2.6	2.4
		3. ときどきあった	5.2	4.7	5.5	4.8	8.2
		4. たまにあった	17.3	17.2	17.4	17.6	15.3
		5. ぜんぜんなかった	72.6	72.1	73.0	72.7	71.8
	時間として長い正座させられた	1. しょっちゅうだった	1.0	0.9	1.1	0.7	3.5
		2. わりとあった	0.7	0.9	0.6	0.7	1.2
		3. ときどきあった	0.9	1.2	0.6	0.5	3.5
		4. たまにあった	5.4	6.1	4.9	5.6	3.5
		5. ぜんぜんなかった	92.0	91.0	92.8	92.5	88.2
	夜、眠いのに勉強させられた	1. しょっちゅうだった	1.8	1.7	1.9	1.8	2.4
		2. わりとあった	1.8	2.6	1.3	2.1	0.0
		3. ときどきあった	3.1	3.5	2.8	3.4	0.0
		4. たまにあった	9.4	9.3	9.6	10.1	3.5
		5. ぜんぜんなかった	83.8	82.8	84.5	82.6	94.1
	罰として髪を無理やり切られた	1. しょっちゅうだった	0.5	0.3	0.6	0.4	1.2
		2. わりとあった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		3. ときどきあった	0.4	0.0	0.6	0.4	0.0
		4. たまにあった	0.7	1.2	0.4	0.8	0.0
		5. ぜんぜんなかった	98.4	98.6	98.3	98.4	98.8
	突然、水をたぶらされた	1. しょっちゅうだった	0.2	0.0	0.4	0.3	0.0
		2. わりとあった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		3. ときどきあった	0.6	0.6	0.6	0.7	0.0
		4. たまにあった	0.7	0.6	0.9	0.4	3.5
		5. ぜんぜんなかった	98.4	98.8	98.1	98.6	96.5
親のひざの上で抱かれた	1. しょっちゅうだった	14.4	5.3	21.1	14.4	14.3	
	2. わりとあった	15.9	8.5	21.3	15.1	22.6	
	3. ときどきあった	15.1	13.2	16.6	15.5	11.9	
	4. たまにあった	19.5	21.6	17.9	19.4	20.2	
	5. ぜんぜんなかった	35.1	51.5	23.1	35.6	31.0	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別		
			男子	女子	1年	3年	
5	けいで外へ出た手をつな	1. しょっちゅうだった	18.9	6.1	28.2	19.0	18.1
		2. わりとあった	17.4	9.9	22.9	17.3	18.1
		3. とときあった	18.3	18.4	18.2	18.0	20.5
		4. たまにあった	19.0	21.6	17.1	18.6	22.9
		5. ぜんぜんなかった	26.4	43.9	13.7	27.1	20.5
	らつて体を洗った風呂で	1. しょっちゅうだった	14.6	6.7	20.4	14.6	14.6
		2. わりとあった	16.6	9.1	22.1	16.1	20.7
		3. とときあった	18.2	15.8	20.0	18.7	13.4
		4. たまにあった	21.5	24.9	19.1	21.1	25.6
		5. ぜんぜんなかった	29.1	43.6	18.5	29.5	25.6
6	れら自分で大事な親いさか	1. とてもそう思っていた	2.3	1.2	3.2	2.3	2.4
		2. わりとそう思っていた	4.7	4.9	4.5	4.5	6.1
		3. たまにそう思った	26.6	22.7	29.5	25.5	36.6
		4. ぜんぜん思わなかった	66.4	71.2	62.8	67.7	54.9
	しが友だちのママ	1. とてもそう思っていた	9.3	10.5	8.5	8.8	14.5
		2. わりとそう思っていた	12.7	10.8	14.0	12.4	14.5
		3. たまにそう思った	37.5	35.2	39.1	37.8	34.9
		4. ぜんぜん思わなかった	40.5	43.6	38.3	41.0	36.1
	用でできないおとなは信	1. とてもそう思っていた	8.4	6.7	9.6	7.8	13.1
		2. わりとそう思っていた	8.4	8.2	8.5	8.7	6.0
		3. たまにそう思った	30.8	29.2	31.9	30.5	33.3
		4. ぜんぜん思わなかった	52.5	55.8	50.0	53.0	47.6
	気がなるか	1. とてもそう思っていた	6.0	6.4	5.7	5.6	9.5
		2. わりとそう思っていた	6.4	7.2	5.7	6.6	4.8
		3. たまにそう思った	20.2	17.4	22.3	20.9	14.3
		4. ぜんぜん思わなかった	67.4	69.0	66.2	66.9	71.4
	てばかりいる(親は自分考)	1. とてもそう思っていた	3.6	2.6	4.3	3.4	4.8
		2. わりとそう思っていた	6.3	6.4	6.2	6.2	7.2
		3. たまにそう思った	21.1	22.2	20.4	20.5	26.5
		4. ぜんぜん思わなかった	69.0	68.8	69.1	69.8	61.4
	つ自分の家は	1. とてもそう思っていた	7.9	7.8	7.9	6.4	20.2
		2. わりとそう思っていた	6.9	8.4	5.8	6.9	7.1
		3. たまにそう思った	27.9	27.9	27.9	27.8	28.6
		4. ぜんぜん思わなかった	57.3	55.8	58.4	58.8	44.0
	したい	1. とてもそう思っていた	5.9	4.9	6.6	5.2	11.9
		2. わりとそう思っていた	5.9	5.8	6.0	6.0	4.8
		3. たまにそう思った	22.9	18.3	26.2	22.2	28.6
		4. ぜんぜん思わなかった	65.4	70.9	61.3	66.6	54.8
たの家族の空気が冷たい	1. とてもそう思っていた	2.3	2.6	2.1	1.8	7.2	
	2. わりとそう思っていた	1.1	0.9	1.3	1.0	2.4	
	3. たまにそう思った	12.8	13.3	12.4	12.1	19.3	
	4. ぜんぜん思わなかった	83.8	83.2	84.2	85.2	71.1	
しも家でびくびく	1. とてもそう思っていた	1.5	0.9	1.9	1.1	4.8	
	2. わりとそう思っていた	1.4	2.0	0.9	1.1	3.6	
	3. たまにそう思った	5.3	5.0	5.5	5.2	6.0	
	4. ぜんぜん思わなかった	91.9	92.1	91.7	92.6	85.7	
親だし	1. とてもそう思っていた	34.6	28.0	39.5	35.0	31.0	
	2. わりとそう思っていた	33.3	34.7	32.2	33.4	32.1	
	3. たまにそう思った	21.4	23.6	19.7	20.8	26.2	
	4. ぜんぜん思わなかった	10.8	13.7	8.6	10.8	10.7	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	3年		
6	いる親の出かけが楽しい	1. とてもそう思っていた	30.7	19.2	39.1	32.2	17.9	
		2. わりとそう思っていた	28.6	23.0	32.7	29.3	22.6	
		3. たまにそう思った	25.8	34.7	19.2	24.6	35.7	
		4. ぜんぜん思わなかった	14.9	23.0	9.0	13.9	23.8	
7	つどお子どもがたかな親だは頃	1. 家族のために夜遅くまで一生懸命働いていた	45.2	41.6	47.8	46.0	38.0	
		2. 仕事だけでなく適当に楽しんだり遊んだりしていた	48.2	51.5	45.9	48.0	50.6	
		3. 仕事よりも自分の楽しみや遊びに夢中だった	0.9	0.9	0.9	0.8	1.3	
		4. お父さんがいなかった	5.7	6.0	5.5	5.2	10.1	
8	つどお子どもがたかな親だは頃	1. 家族のために夜遅くまで一生懸命働いていた	42.5	43.9	41.4	42.9	39.0	
		2. 仕事や家事の間に適当に楽しんだり遊んだりしていた	54.5	51.0	57.0	54.7	52.4	
		3. 仕事や家事よりも自分の楽しみや遊びに夢中だった	1.4	2.4	0.7	1.3	2.4	
		4. お母さんがいなかった	1.6	2.7	0.9	1.1	6.1	
9	かうつがと親が弱くなるとい	1. できれば同じ家に住んで親の世話をしたい	40.2	37.6	42.2	42.1	24.1	
		2. できれば親の家の近くに住んで世話をしに行きたい	52.3	49.7	54.2	51.0	63.9	
		3. できれば老人ホームなどで専門家に世話をしてほしい	7.5	12.6	3.7	6.9	12.0	
10	あなたの将来はどうなると思うか	作られる家庭を	1. とてもそう思う	21.8	16.9	25.3	21.0	28.0
			2. わりとそう思う	51.6	46.2	55.6	51.8	50.0
			3. あまりそう思わない	22.9	31.1	16.9	23.3	19.5
			4. ぜんぜんそう思わない	3.8	5.9	2.2	3.9	2.4
		ない病気がはしき	1. とてもそう思う	30.8	34.0	28.5	32.2	18.5
			2. わりとそう思う	33.8	27.6	38.4	33.9	33.3
			3. あまりそう思わない	25.4	24.3	26.1	24.5	33.3
			4. ぜんぜんそう思わない	10.0	14.1	6.9	9.4	14.8
		にわいがる親か	1. とてもそう思う	45.2	35.0	52.6	45.3	45.1
			2. わりとそう思う	43.4	46.7	40.9	43.3	43.9
			3. あまりそう思わない	8.6	13.2	5.4	8.5	9.8
			4. ぜんぜんそう思わない	2.8	5.1	1.1	2.9	1.2
		幸せになる	1. とてもそう思う	44.6	37.8	49.6	44.6	44.4
			2. わりとそう思う	39.7	38.3	40.7	39.5	42.0
			3. あまりそう思わない	13.4	19.5	9.1	13.6	12.3
			4. ぜんぜんそう思わない	2.2	4.4	0.6	2.4	1.2
する仕事で成功	1. とてもそう思う	32.8	37.1	29.7	33.2	29.8		
	2. わりとそう思う	39.7	32.5	44.9	39.8	38.1		
	3. あまりそう思わない	23.3	23.4	23.2	22.5	29.8		
	4. ぜんぜんそう思わない	4.2	7.0	2.2	4.4	2.4		